



第2回スクール・パリ協定2020 パリ協定と9/3 オンラインプラットフォーム



COP25マドリッド会議にて(2019年12月)

2020年8月28日(金)
WWFジャパン 専門ディレクター(環境・エネルギー)
小西雅子

パリ協定ルールブック(実施指針)

国別目標に何を書き、
進捗や達成をいか
に測るか

緩和
4条

適応
7条

適応報告に
何を書くのか

各国にいかに取り組
ませ、いかにその取り
組みを報告させ、そ
れを国際的にチェック
するのか

新しい市場メカニズム
(分散型・国連主導型)、
非市場メカの設計

協力的ア
プローチ
6条

透明性
13条

遵守
15条

どのように、各国が国別目標
を守るように促すか。もし守
れなかった場合はどうするか

技術移転のメカニズム
をいかに構築するか

技術
移転
10条

資金
9条

先進国(および自主的な資金支
援国)が行う供与・動員はどのよ
うに実施、算定されるか

5年ごとの世界全体
での進捗確認は、
どのような情報を基
にどう行うのか

グローバル・
ストックテイク
14条



一目でわかるパリ協定！（科学と整合！）

1. 気温上昇を2度（1.5度）に抑えるために、今世紀後半に**人間活動による排出ゼロ**をめざす目標を持つ初めての協定
2. 今の削減目標では2度は達成できないが、今後達成できるように、5年ごとという短いサイクルで、**目標を改善していく仕組み**
3. 世界が本気で温暖化対策を進める意思を持つことを表すために、**法的拘束力を持つ協定**とした
4. ただし、厳しすぎて協定から抜ける国を作らないために、**目標達成は義務としなかった**
5. 目標達成を促すため、同じ制度の下で報告させ、多国間で検証して**国際的に達成状況をさらす仕組み**
6. 先進国・途上国問わず**すべての国が削減に取り組む**が、そのためには途上国への資金と技術支援を一部義務とした
7. 主な対策を、各国に**国内で整備するよう義務**としており、多大なる宿題を各国に課している

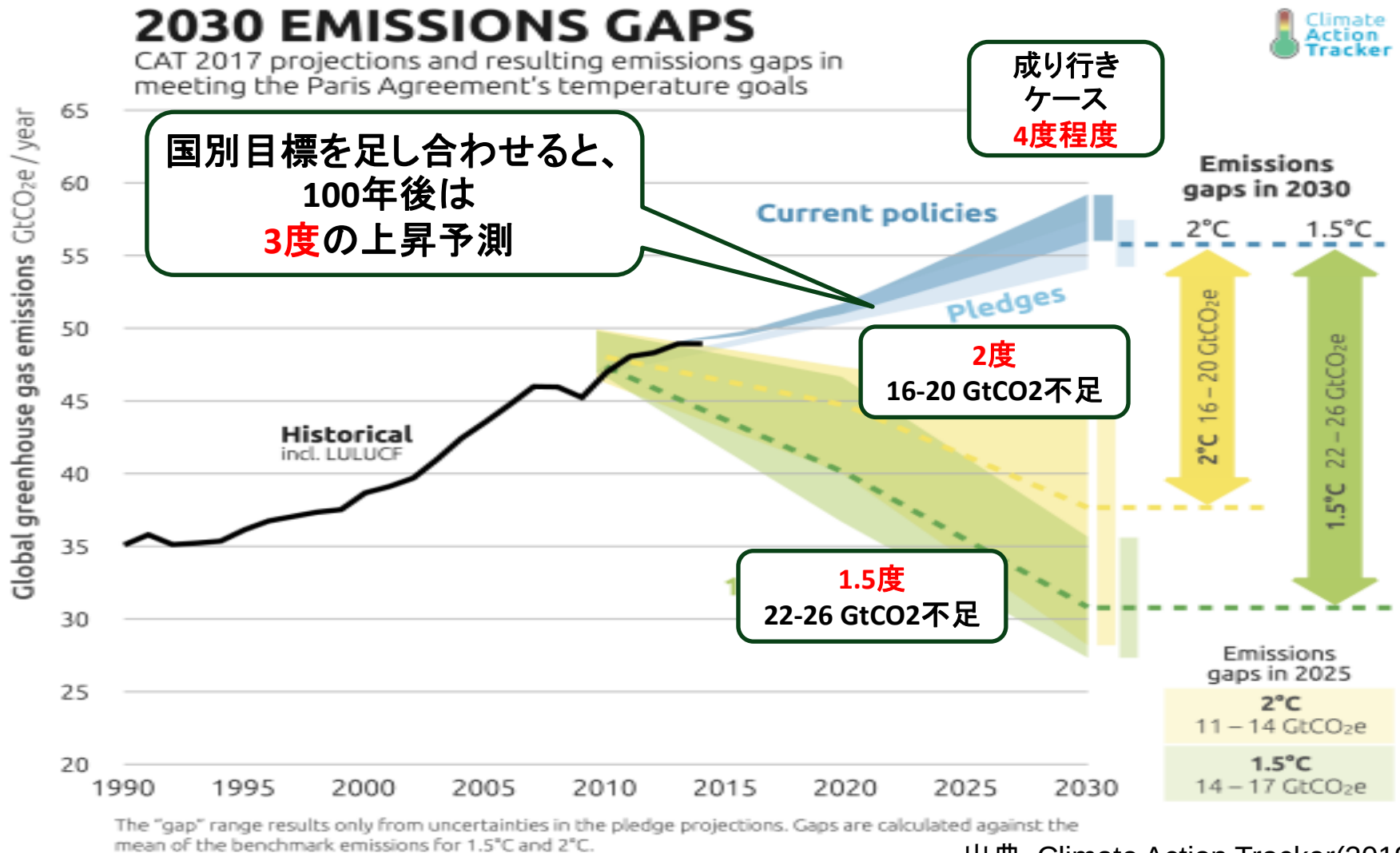


パリ協定における主要国の国別目標

EU	・2030年までに、1990年比で、GHG排出量を国内で少なくとも 40%削減
アメリカ	・2025年までに、2005年比で、GHG排出量を 26～28%削減 (28%削減へ最大限努力)
日本	・2030年までに、2013年比で、GHG排出量を 26%削減
中国	・2030年までのなるべく早くに排出を減少に転じさせる ・ 国内総生産(GDP)当たりCO2排出量を05年比で60～65%削減
ブラジル	・2025年に 2005年比で37%削減 、示唆的に2030年に2005年比で43%削減
インド	・2030年に2005年比で、 GDPあたりの排出量を33～35%削減 (＊2020年には2005年比で、GDPあたり20～25%削減)



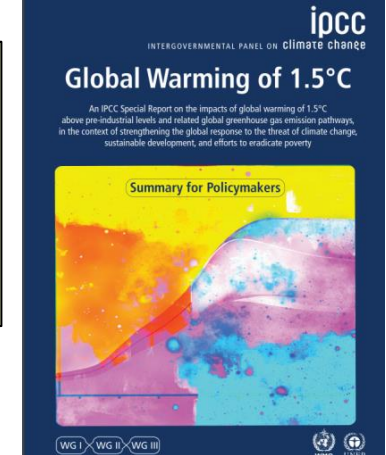
パリ協定 世界各国の国別目標を足し合わせても 気温上昇は2度を超えてしまう



出典: Climate Action Tracker(2019)

<https://climateactiontracker.org/global/cat-emissions-gaps/>

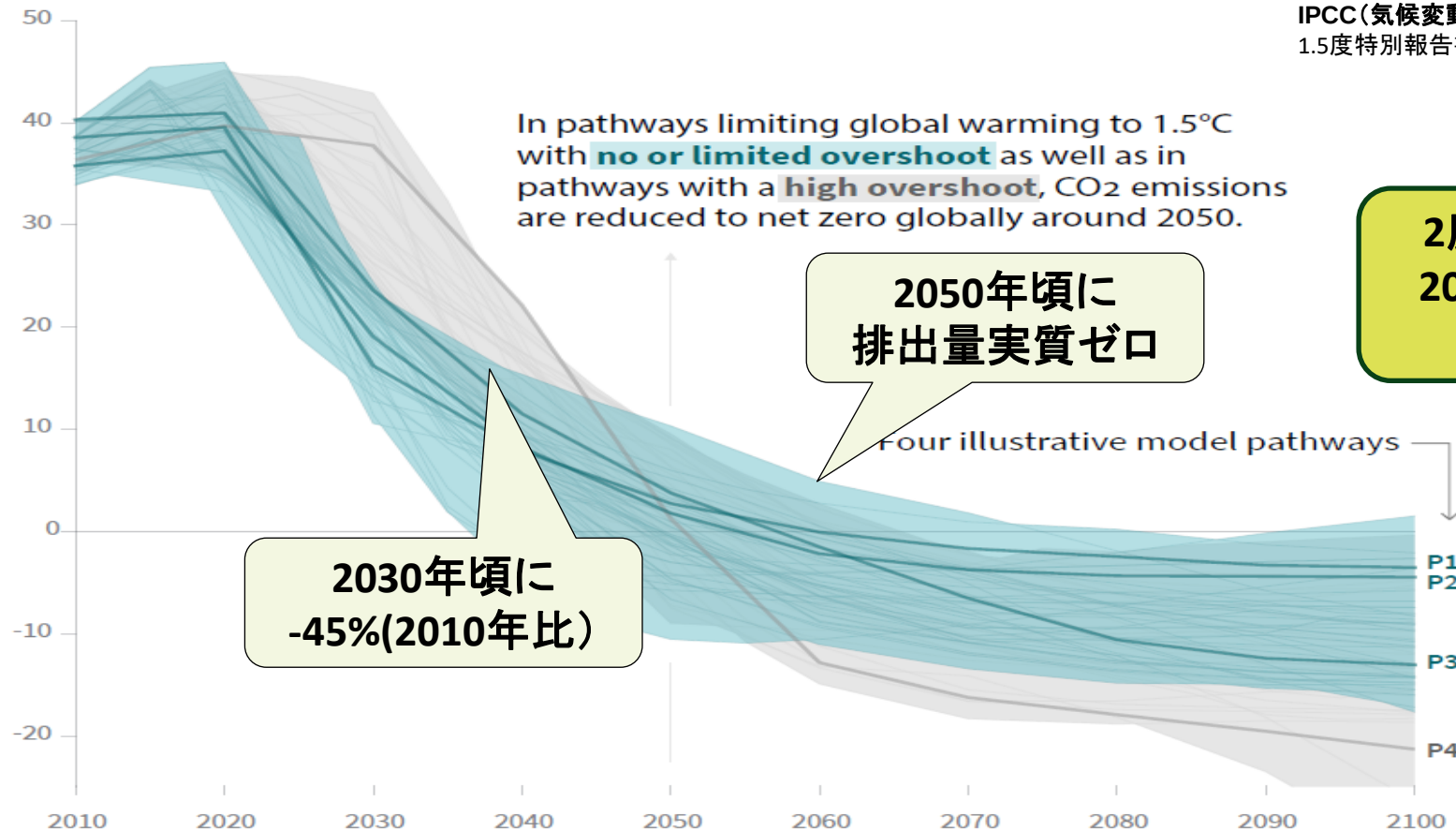
1.5℃に抑える排出経路は、
2030年までに約45%（2010年水準）減少
2050年ごろに実質ゼロ



IPCC(気候変動に関する政府間パネル)
1.5度特別報告書(SR1.5) 2018年10月発表

Global total net CO₂ emissions

Billion tonnes of CO₂/yr



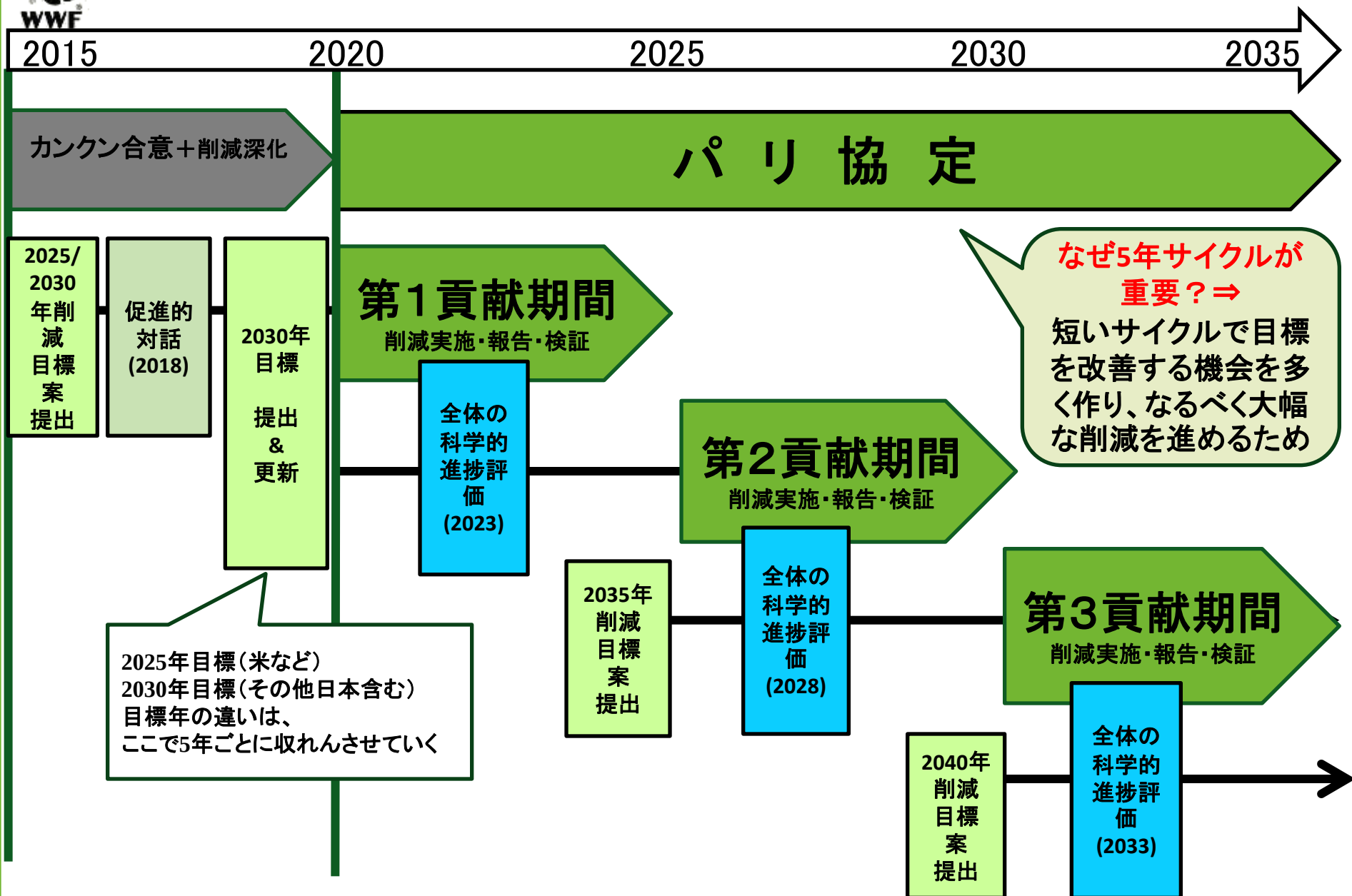


一目でわかる「IPCC 1.5度特別報告書」

- ・人間活動によって、産業革命前に比べて、すでに**約1度上昇**
- ・現在のペースで排出量が増加し続けると、**2030～2052年の間に、1.5度に達する見込み**
- ・1.5度の上昇でさえ、現在よりも**かなりの悪影響**が予測される
- ・さらに1.5度と2度上昇の場合には、影響に相当程度の違い(robust difference)があり、**1.5度の方が安全**であることが明らかとなった。
- ・1.5度に抑えるには、世界の排出量を、**2030年に▲45%(2010年比)、2050年には実質ゼロ**にする必要がある（2度のためには、2030年に▲20%(2010年比)、2075年に実質ゼロ）
- ・1.5度に抑えることは可能だが、前例のないスケールで社会システムの移行が必要
 - **2050年に再エネ70～85%、石炭ゼロ**など
- ・パリ協定に提出されている現状の**各国の目標では、3度の上昇**が見込まれる



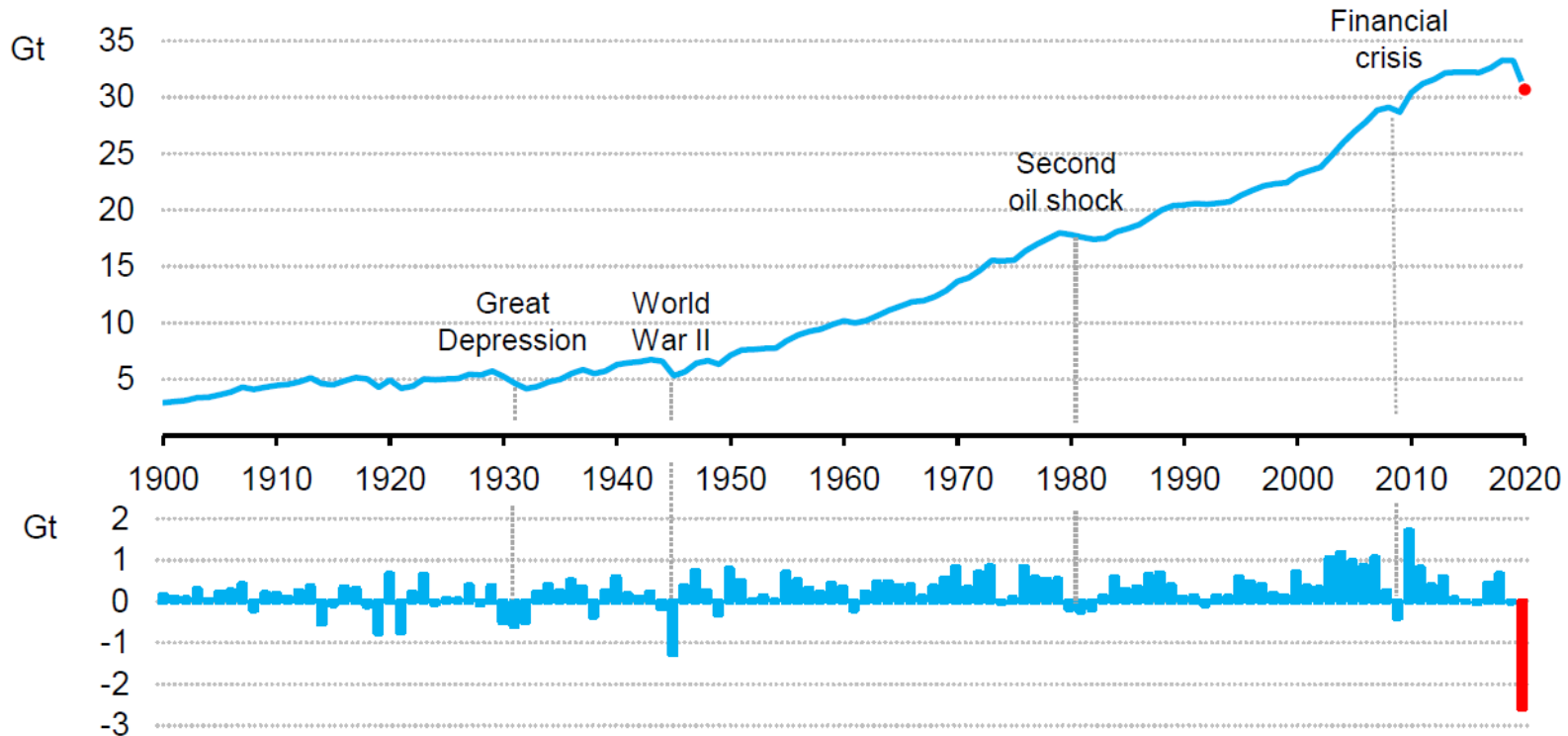
パリ協定の目標改善サイクルの仕組み





新型コロナによる、2020年GHG排出量減少予測 IEA 2020/4/30発表

Global energy-related CO₂ emissions and annual change, 1900-2020



2020年のエネルギー需要は6%減少(2008年金融危機時の7倍)
主に石炭と石油使用の減少
GHG約8%減少(金融危機時の6倍)

出典: IEA, Global Energy Review, The impacts of the COVID-19 crisis
on global energy demand and CO₂ emissions, 2020/4/30



経済刺激策を持続可能なリカバリー(経済回復)に



IEA Fatih Birol事務局長

化石燃料依存型経済が続くならば、
コロナ禍後には排出量は急増に転じるであろう

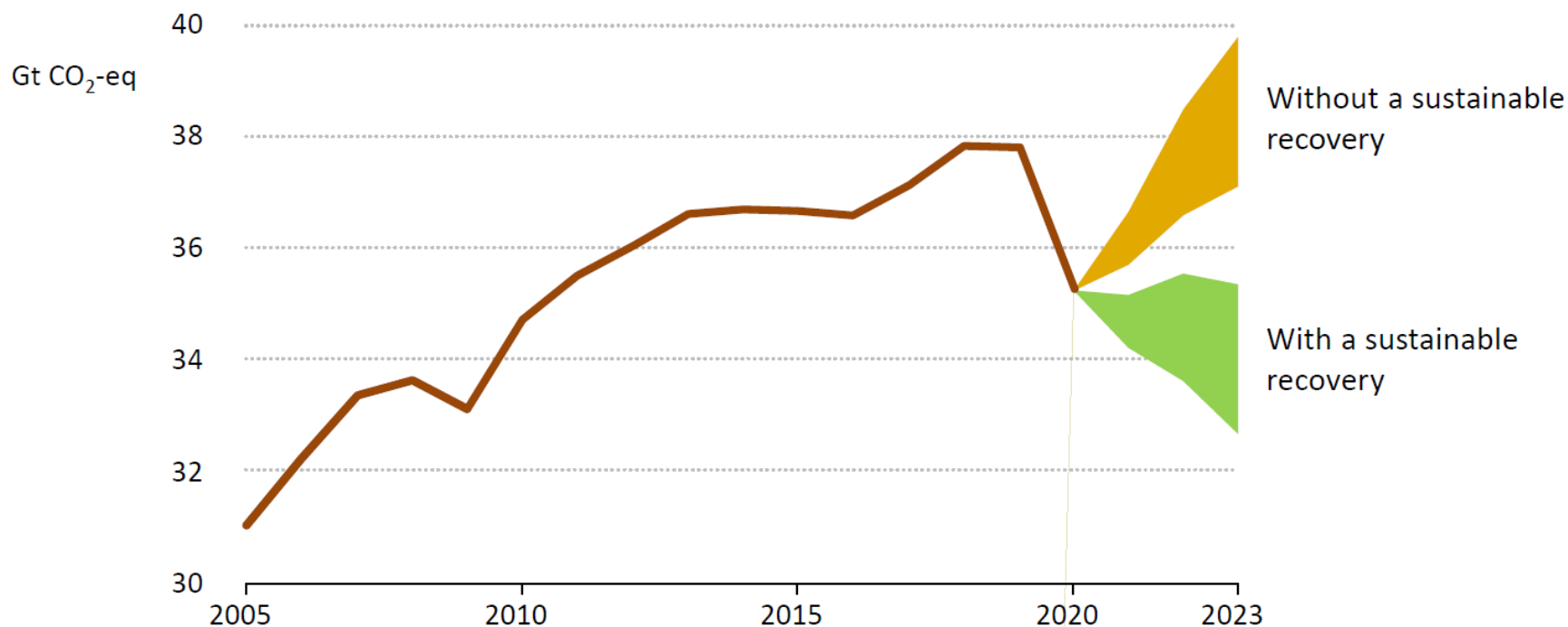
2008年金融危機後は、GHG排出量はすぐに急増した。その経験から学んで、各国政府は、コロナ禍対応には、クリーンエネルギーへの移行を真っ先に念頭に置くべきだ。(2020/4/27)

Governments have a once-in-a-lifetime opportunity to reboot their economies and bring a wave of new employment opportunities while accelerating the shift to a more resilient and cleaner energy future (2020/6/18)



新型コロナからの持続可能なリカバリーによる、 これからのGHG排出量予測 IEA 2020/6/18発表

Energy-sector GHG emissions



持続可能なリカバリーの実施

- ①世界GDP年平均1.1%増加、②900万人の雇用回復
 - ③2019年をGHG排出量のピークに(45億トンGHG減少可能)
- パリ協定の長期目標に沿った道筋へ



国連グテーレス事務局長スピーチ(4/30)

「温室効果ガス排出や新型コロナウイルスなどに国境は関係ない。どの国も単独では戦えない。我々には協調するための行動フレームワークである**パリ協定とSDGs**がある。すべての国がNDC強化と2050年ゼロを。この感染症対策を皆にとってより安全で、健全で、包括的で、より抵抗力のある世界を創造するために利用しよう。」

- ・114の国がNDC強化を表明
- ・121の国が2050年カーボンニュートラルにコミット
- ・チリ、欧州連合、ドイツ、イギリスの気候対策称賛
- ・G20は80%の排出量・85%の経済を占める、2050年ゼロに

(小西訳)

出典: <https://www.un.org/sg/en/content/sg/statement/2020-04-28/secretary-generals-remarks-petersberg-climate-dialogue-delivered>

国連環境計画(UNEP)常駐代表委員会議長
Fernando Coimbra氏声明(4/30)

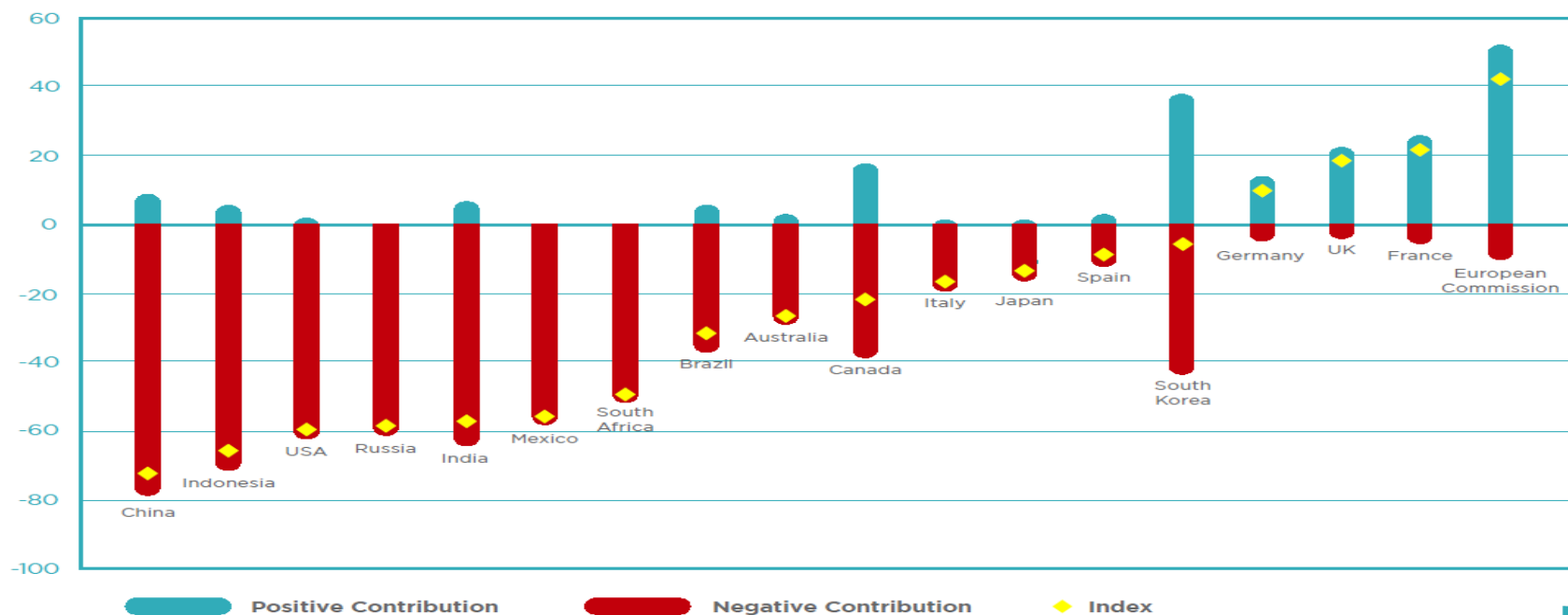
「世界恐慌以来、最悪の状況にある」「多くの国にとって、現時点で回復について話すのは時期尚早に思えるかもしれないが、**SDGs、パリ協定**は永続的な回復にとって唯一の選択肢」



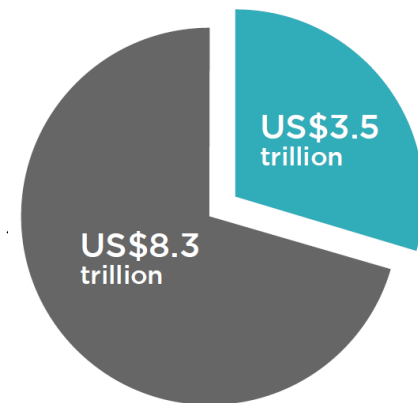
世界の経済刺激策グリーン度(環境重視)調査 Vivid Economics(2020/7/21発表)

※2週間ごとにアップデートされる予定

Green Stimulus Index



- 17主要国＋欧州連合で合わせて経済刺激策11.8兆ドル
- そのうち約30%の3.5兆ドルが環境重視
- 救済に環境重視の条件付けや補助金: 仏(航空)、独(EV等)
カナダ(TCFD)、欧州パッケージdo no harm
- 日本はマイナス評価



出典: Vivid Economics, Greenness of Stimulus Index

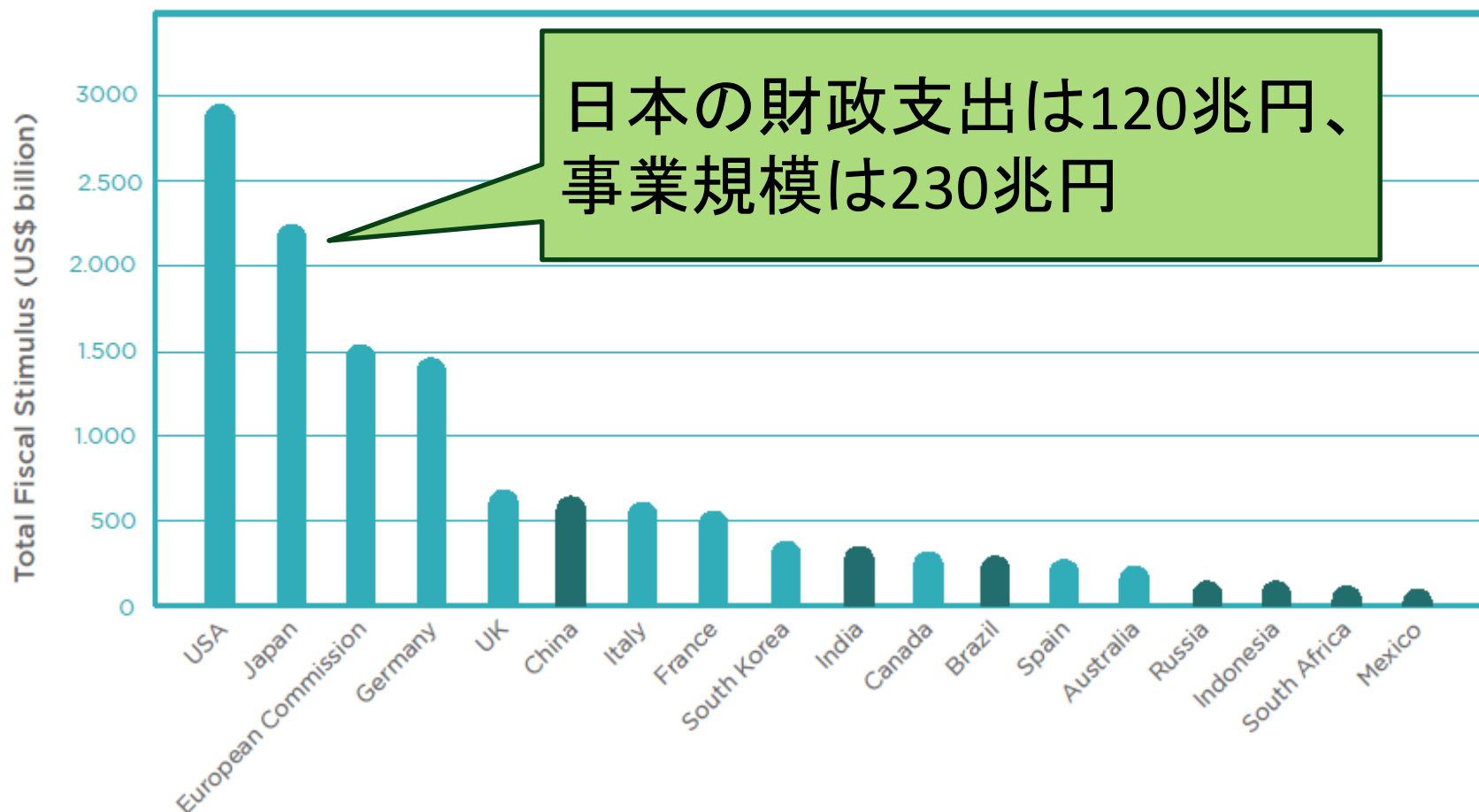
<https://www.vivideconomics.com/casestudy/greenness-for-stimulus-index/>



世界の経済刺激策 発表された額 Vivid Economics(2020/7/21発表) ※2週間ごとにアップデートされる予定

Figure 1

Announced COVID response fiscal stimulus package by country



出典:Vivid Economics, Greenness of Stimulus Index

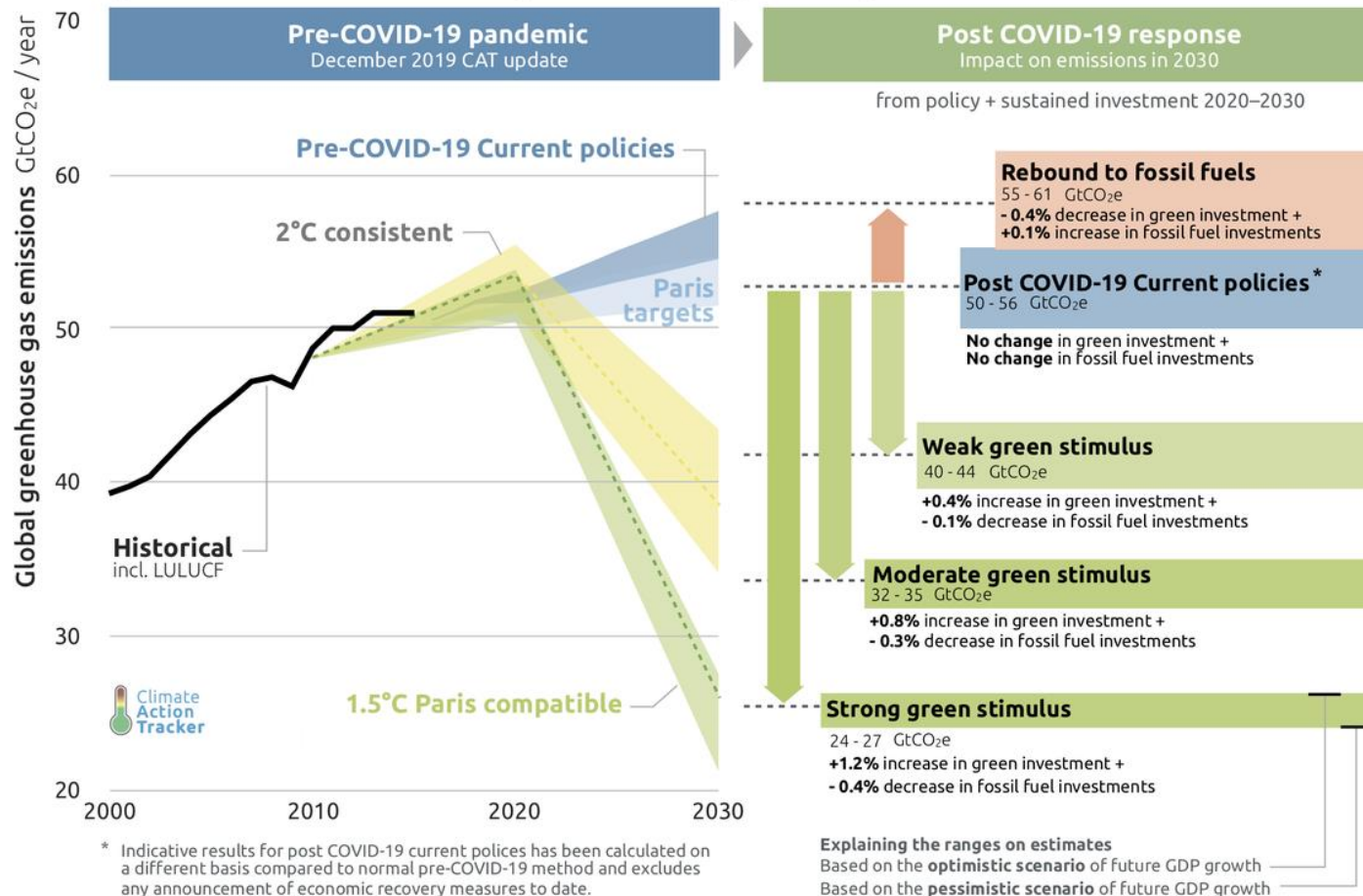
<https://www.vivideconomics.com/casestudy/greenness-for-stimulus-index/>



グリーン・リカバリーの世界情報まとめサイト

Green stimulus to fight the COVID-19 economic crisis and the climate crisis

Strong climate policies plus sustained investment can provide valuable jobs, revitalise economies and get the world on track to meeting the 1.5°C Paris Agreement goal



主要国のグリーン
経済刺激策
の評価を掲載

ex. 経済刺激策
の環境配慮の
条件付け: 豪
(航空)、欧州
(グリーンニュー
デールの活用)、
アフリカ(再エネ
活用)



日本の経済刺激策のグリーン度（環境配慮）は？

1. 「緊急対応策」

「新型コロナウイルス感染症に対する緊急対応策（第1弾2/3、第2弾3/10）
「生活不安に対応するための緊急措置3/18」

2. 新型コロナウイルス感染症緊急経済対策

～国民の命と生活を守り抜き、経済再生へ～（4/20閣議決定）
財政支出は120兆円、事業規模は、230兆円を超える

脱炭素は
2か所

最後にSDGs
と気候変動

3. 経済財政運営と改革の基本方針2020について(7/17)

（4）持続可能な開発目標（SDGs）を中心とした環境・地球規模課題への貢献

パリ協定に基づく長期戦略102に基づき、改定予定の地球温暖化対策計画を踏まえ、環境と成長の好循環を実現するため、水素等の脱炭素化の取組を推進する。特に、「革新的環境イノベーション戦略」に基づき研究開発や投資を促進し、産業革命以来増加を続けてきた二酸化炭素を減少へと転じさせる「**ビヨンド・ゼロ**」を目指す。グリーンボンドの発行等を含め、ESG投資を推進する。脱炭素化という国際的な責任を果たすため、徹底した省エネルギーの推進と併せ、再生可能エネルギーについて、主力電源化を目指し、国民負担の抑制を図りながら最大限の導入を促す。必要な送配電・電源投資を着実に実施し、コスト効率化や、分散型エネルギーシステムなど真の地産地消にも取り組むよう促す。安全最優先の原発再稼働を進めるとともに実効性ある原子力規制や原子力防災体制の構築¹⁰⁴を着実に推進する。安全性等に優れた炉の追求など将来に向けた研究開発等を推進する。



日本NDC目標据え置きで3/30再提出

CAT RATING OF JAPAN'S TARGET

CRITICALLY
INSUFFICIENT

HIGHLY
INSUFFICIENT

INSUFFICIENT

2°C
COMPATIBLE

1.5°C PARIS
AGREEMENT
COMPATIBLE

ROLE
MODEL

2016 NDC target: **HIGHLY INSUFFICIENT** | New 2020 NDC target: **HIGHLY INSUFFICIENT**

❌ Stronger target

✅ Fixed/absolute target

⊖ Net-zero target

✅ Economy-wide coverage

✅ Additional supporting targets

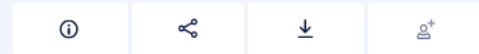
⊖ NDC aligned with net-zero target

著しく不十分
もしすべての国のNDCが日本レベル並みだと
3~4度の気温上昇が見込まれる

出典: Japan, Climate Action Tracker current policy projections
<https://climateactiontracker.org/climate-target-update-tracker/japan-submitted-ndc-2020-03-31/>

NDCの深掘りを表明した国

Explore the data to track which countries have signaled they will update or enhance their national climate commitments (NDCs) by 2020. To request changes or additions, please contact [Rhys Gerholdt](#).



33

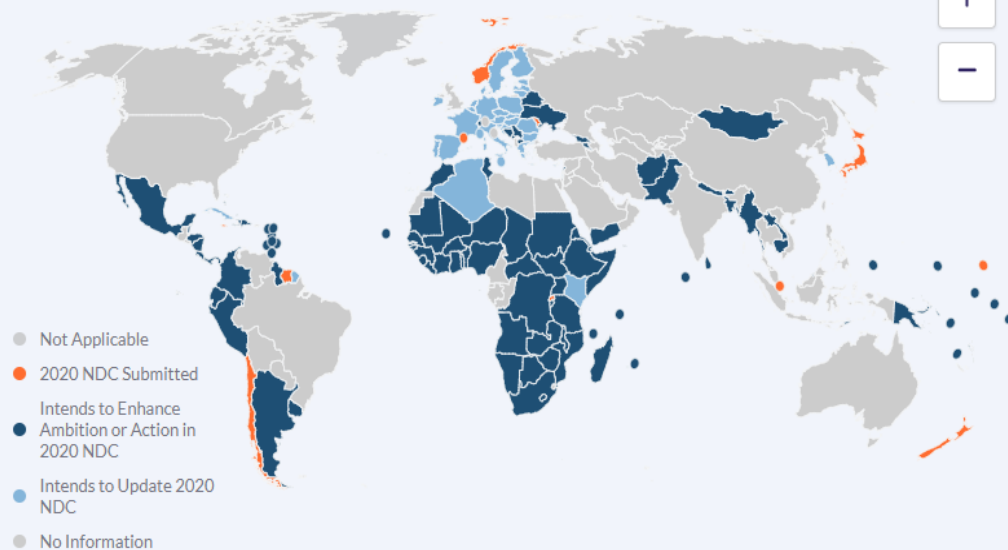
countries have stated their intention to update an NDC by 2020 (including the European Union), representing 8.3% of global emissions

104

countries have stated their intention to enhance ambition or action in an NDC by 2020, representing 15.1% of global emissions

11

countries have submitted a 2020 NDC, representing 2.9% of global emissions



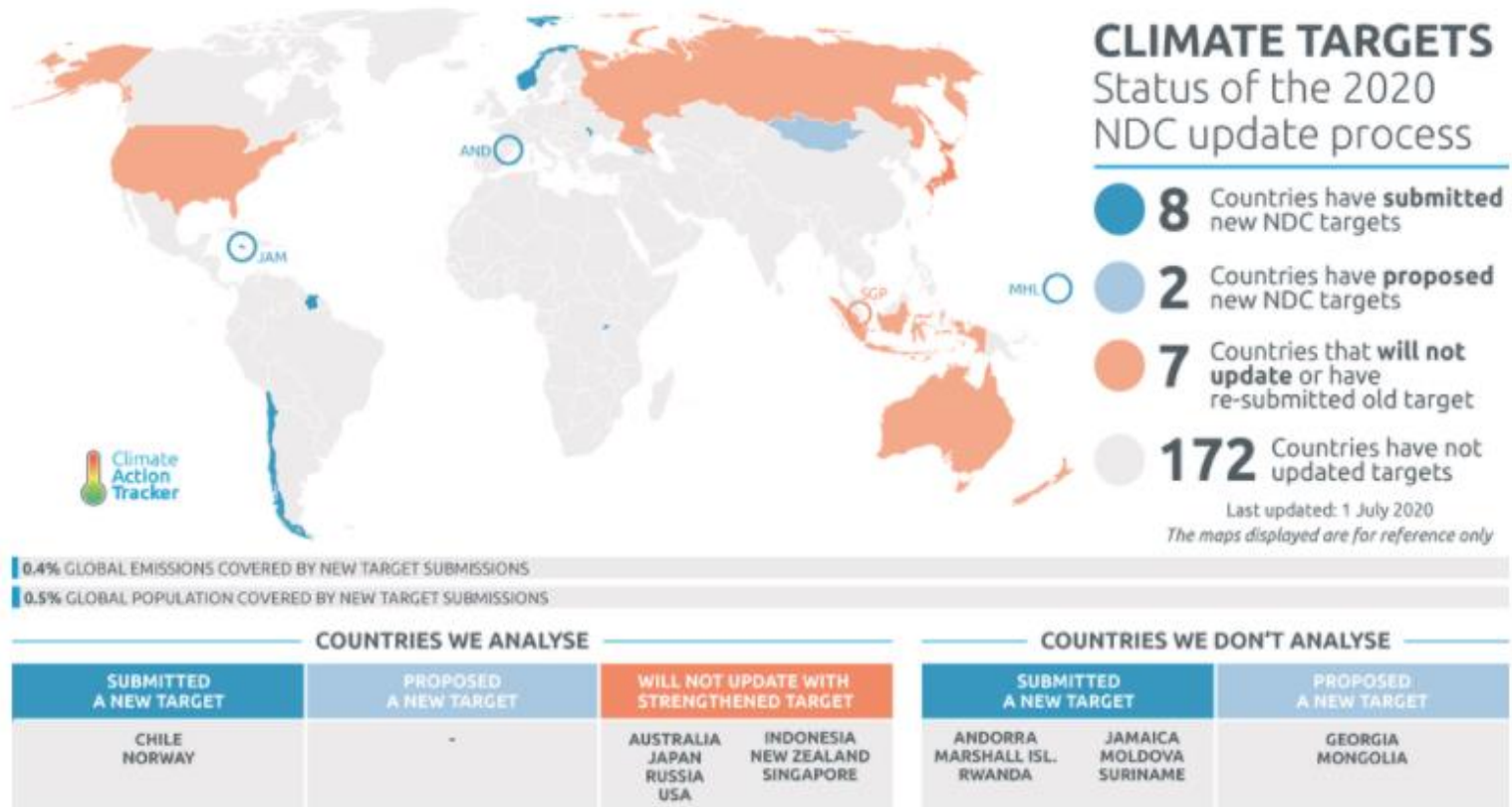
Search table data



Country ▾	Share of Global GHG Emissions ▾	2020 NDC Status ▾	Statement ▾	Source Link ▾	Statement Date ▾
Afghanistan	0.20%	Intends to Enhance Ambition or Action in 2020 NDC	Per Climate Ambition Alliance Statement from	Chilean Presidency	1/13/2020

出典: WRI climatewatchdata.org
<https://www.climatewatchdata.org/2020-ndc-tracker>

NDCの再提出に関するまとめサイト



Updated July 2, 2020

出典: Climate Action Tracker, CAT Climate Target Update Tracker
<https://climateactiontracker.org/climate-target-update-tracker/>

パリ協定と気候変動に関する国際会合

6月(1~11) June Momentum for Climate Change (オンライン)

<https://unfccc.int/process-and-meetings/conferences/june-momentum-for-climate-change>

(SB52(第52回補助機関会合)(6月1~11日だった)の代わり)

本来の主な議論点: 6条市場メカ(6.2, 6.4, 6.8)

排出量報告等の共通報告フォーマットなど)

<https://unfccc.int/sites/default/files/resource/SBSTA52DPA.pdf>

9月3日 Platform for Redesign 2020 (オンライン)

<https://platform2020redesign.org/>

9月(21-27) Climate Week NYC 2020

<https://www.climateweeknyc.org/climate-week-nyc-2020>

11月?

~~~~~

2021年11月(1~12) COP26 グラスゴー(2020年11月予定が延期)

本来の予定

- ・NDCの再提出(COP26の9~12か月前)
- ・NDCの統合報告書(COP26前に)

パリ協定関連会議に  
は注目!

自治体や企業連盟な  
どステークホルダーが  
気候関連のメッセージ  
を出すきっかけ



# June Momentum for Climate June 1-11 2020



Patricia Espinosa

“Corona-based CO2 reductions are no blueprint for long term climate action – they are too economically disruptive – but they do lift the curtains of smog. Showing us that cleaner skies, less congested streets are possible. We’ve seen that political leaders are capable of decisive and far-reaching action when they’re convinced it is necessary. A greener and healthier future is possible.”

Patricia Espinosa also drew attention to the fact that the entire UN system is standing by to help countries design their NDCs and ensure that recovery packages are sustainable.



# Race to Zero Campaign

995 Businesses  
449 Cities  
38 Investors  
21 Regions  
505 Universities

RACE TO ZERO

非国家アクターが  
さらなる主役！



出典 <https://unfccc.int/climate-action/race-to-zero-campaign>  
<https://cop25.mma.gob.cl/wp-content/uploads/2020/02/Annex-Alliance-ENGLISH.pdf>

# 小泉進次郎環境大臣



「6月COP26に向けて、COPのようにすべての希望する国が参加可能な形で、「新型コロナウイルスからの復興と気候変動対策に関する取組」について共有をして、互いに連携をするオンライン・プラットフォームの開催を提案。実現に向けて連携

# Platform for Redesign 2020

<https://platform2020redesign.org/>

## PLATFORM for REDESIGN 2020

Online Platform on Sustainable  
and Resilient Recovery from COVID-19

### About



**W**e are now facing two crises: climate change and the COVID-19 pandemic. Enhancement of international solidarity is indispensable to overcome both crises.

The Online Platform for Sustainable and Resilient Recovery from COVID-19 ("Platform for Redesign 2020") is a hub that collates countries' climate and other environmental policies and actions that are planned and implemented in the context of recovery from COVID-19. As governments around the world take action to respond

9月3日予定

日本時間20時から23時

目的:

- ・COP26の成功に向けて野心の強化、パンデミックからの回復と気候危機の同時解決
- ・回復 & リデザインにおける各国間の情報シェア
- ・コロナ禍分析と気候危機対策について情報をワンストップ化することで、非国家アクター間の政策実施などを後押しする

オンラインプラットフォーム

- ・オンライン大臣会合開催
- ・各国 & 非国家アクターが情報共有
- ・質問票と回答を掲載
- ・ビデオメッセージなどの掲載

# 9月3日オンラインプラットフォーム大臣会合アジェンダ

<http://www.env.go.jp/press/files/jp/114577.pdf>

| 時間              | 内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 20:00           | 小泉大臣とエスピノーザ事務局長opening                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 20:15-<br>21:00 | セッション1 : with/after新型コロナに向けた3つの移行とリデザイン<br>ファシリ: Andrew Steer, WRI CEO<br>パネリスト: 小泉大臣他2~3人                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 21:00-<br>22:20 | セッション2: 大臣級ラウンドテーブル「新型コロナからの回復施策と行動」<br>議長: Selwin Hart, Special Adviser, UN Secretary-General on Climate Action<br>1) Overall (including efforts towards successful COP26):<br>2) Strengthening Climate Action and Fostering Ambition:<br>3) Energy (Renewable energy, Hydrogen etc.)<br>4) Transportation<br>5) Urban Planning<br>6) Adaptation (Water, food system etc.) |
| 22:20-<br>22:55 | Sesshon 3:ステークホルダーの関心に従った議論<br>パネリスト: UNFCCCオブザーバー(非国家アクター/ビジネス・自治体・労働・市民団体)<br>ステークホルダーからの質問にセッション1,2の参加者が回答する<br>若者メッセージなど                                                                                                                                                                                                                                                |
| 22:55           | 小泉大臣クロージング                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

議長サマリーが出される予定



# 見どころとなりそうなポイント①

## 小泉大臣“Rising Star”への世界からの注目

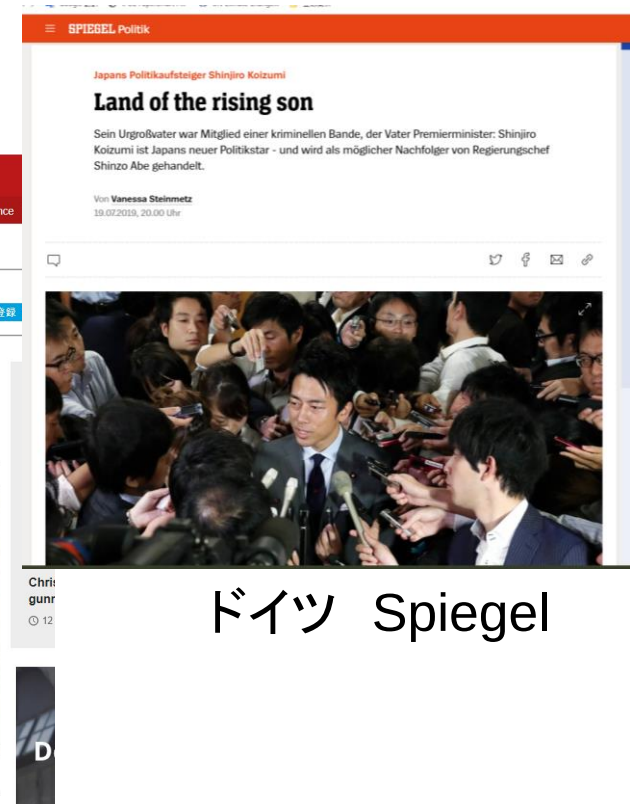
- ・環境後ろ向き国日本のイメージからの刷新
- ・ホスト国になるのは国内で覚悟を迫る必要  
石炭方針転換の発表(COP25の演説からの経緯に注目)  
2050年ゼロ表明自治体の人口7000万人超え
- ・国連の日本への期待を背負う



イギリス The Guardian



BBC



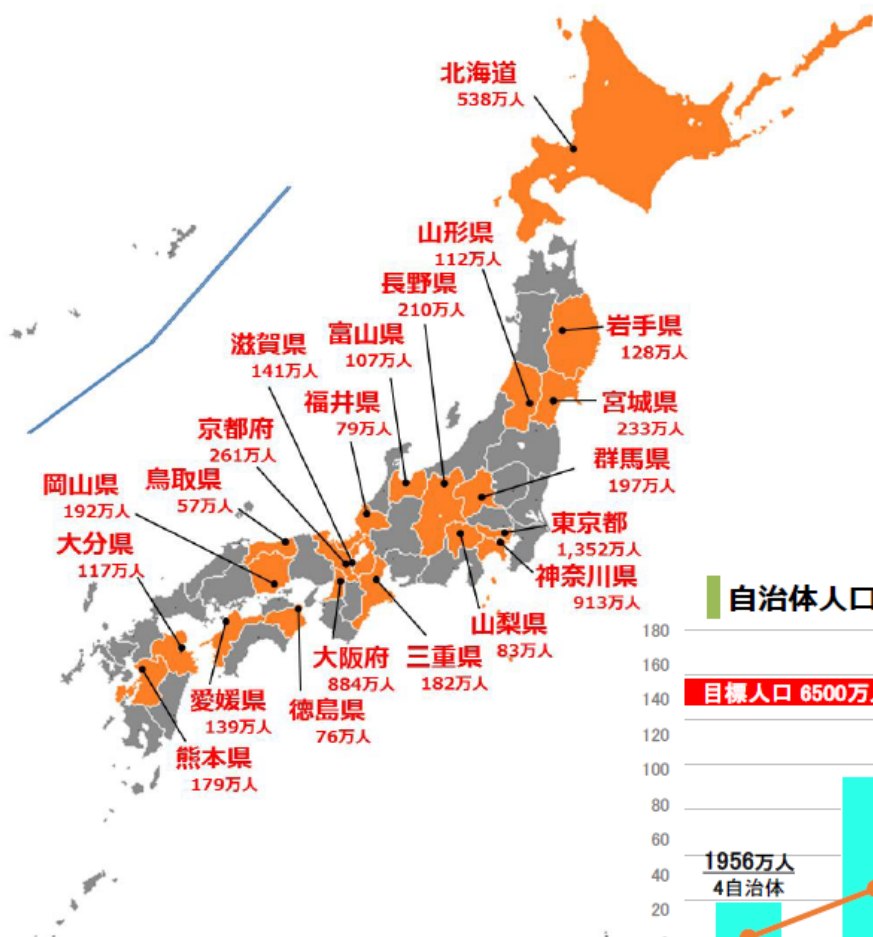
ドイツ Spiegel



## 2050年 二酸化炭素排出実質ゼロ表明 自治体

- 東京都・京都市・横浜市を始めとする151の自治体（21都道府県、82市、1特別区、37町、10村）が「2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロ」を表明。
- 表明した自治体を合計すると人口は約7,115万人(※)、GDPは約334兆円となり、我が国の総人口の半数を超え、更なる拡大を目指します。※各地方公共団体の人口合計では、都道府県と市区町村の重複を除外して計算しています。（2020年8月6日時点）

表明都道府県 (6,180万人)



表明市区町村 (2,285万人)

7115万人  
151自治体

| 北海道  | 福島県   | 茨城県     | 埼玉県   | 石川県    | 三重県  | 佐賀県  |
|------|-------|---------|-------|--------|------|------|
| 札幌市  | 郡山市   | 水戸市     | さいたま市 | 金沢市    | 志摩市  | 武雄市  |
| 二セコ町 | 大熊町   | 土浦市     | 秩父市   | 加賀市    | 京都府  | 熊本県  |
| 古平町  | 浪江町   | 古河市     | 千葉県   | 山梨県    | 京都市  | 熊本市  |
| 岩手県  | 栃木県   | 結城市     | 山武市   | 南アルプス市 | 宮津市  | 菊池市  |
| 久慈市  | 大田原市  | 常総市     | 野田市   | 甲斐市    | 与謝野町 | 宇土市  |
| 二戸市  | 那須塩原市 | 高萩市     | 我孫子市  | 笛吹市    | 大阪府  | 宇城市  |
| 葛巻町  | 那須烏山市 | 北茨城市    | 浦安市   | 上野原市   | 枚方市  | 阿蘇市  |
| 普代村  | 那須町   | 取手市     | 四街道市  | 中央市    | 東大阪市 | 合志市  |
| 軽米町  | 那珂川町  | 牛久市     | 東京都   | 市川三郷町  | 泉大津市 | 美里町  |
| 野田村  | 群馬県   | 鹿嶋市     | 葛飾区   | 富士川町   | 兵庫県  | 玉東町  |
| 九戸村  | 太田市   | 潮来市     | 多摩市   | 昭和町    | 明石市  | 大津町  |
| 洋野町  | 藤岡市   | 守谷市     | 神奈川県  | 長野県    | 奈良県  | 菊陽町  |
| 一戸町  | 神流町   | 常陸大宮市   | 横浜市   | 軽井沢町   | 生駒市  | 高森町  |
| 八幡平市 | みなかみ町 | 那珂市     | 川崎市   | 池田町    | 鳥取県  | 西原村  |
| 山形県  | 大泉町   | 筑西市     | 鎌倉市   | 立科町    | 北栄町  | 南阿蘇村 |
| 東根市  |       | 坂東市     | 小田原市  | 白馬村    | 南部町  | 御船町  |
| 移    |       | 桜川市     | 三浦市   | 小谷村    | 岡山県  | 嘉島町  |
|      |       | つくばみらい市 | 開成町   | 南箕輪村   | 真庭市  | 益城町  |
|      |       | 小美玉市    | 新潟県   | 静岡県    | 愛媛県  | 甲佐町  |
|      |       | 茨城町     | 佐渡市   | 浜松市    | 松山市  | 山都町  |
|      |       | 城里町     | 粟島浦村  | 御殿場市   | 福岡県  | 鹿児島県 |
|      |       | 東海村     | 妙高市   | 愛知県    | 福岡市  | 鹿児島市 |
|      |       | 五霞町     | 十日町市  | 岡崎市    | 大木町  |      |
|      |       | 境町      | 富山県   | 半田市    | 長崎県  |      |
|      |       |         | 魚津市   | 豊田市    | 平戸市  |      |
|      |       |         | 南砺市   | みよし市   |      |      |

\* 朱書きは表明都道府県、その他の色書きはそれぞれ共同表明団体

出典:環境省HP <https://www.env.go.jp/policy/zerocarbon.html>





## 見どころとなりそうなポイント②

### 日本国内への環境重視メッセージ

(コロナ禍からの経済回復に気候&SDGs重視)

- 最大関心事のコロナ禍からのグリーン・リカバリーがテーマ
- 各国の経済回復策と気候危機対策の情報が集まる(報告書などの分析が可能?)
- グリーン・リカバリー先進国&途上国からの情報収集の場
- 環境意識の薄い日本国内へ、海外で先行する気候変動に対する危機感とビジネスチャンスとしてとらえる風潮を、世界第一級の人材から直接聞ける機会
- 国連会合参加で人生観が変わった企業人続出。その機会を国内の企業人&自治体&市民に拡大



# グリーン・リカバリーと気候危機対策 日本文脈から見た注目ポイント

(1) なぜ非国家アクターに注目する必要があるか？

➡ 非国家アクターが、グリーン・リカバリーでも気候危機対策でも主役の一角に、その背景を理解しよう

(2) なぜ日本ではグリーン・リカバリーや気候危機対策が進みにくいのか？

➡ 産業シフトへの抵抗感、変化は？

(3) 旧産業から新産業へ、産業構造の転換をはかるためには？

➡ Just Transition(公正な移行)＝“支援”の必要性

(1)なぜ非国家アクターに注目する必要があるか？

- ➡ 非国家アクターがパリ協定の成立に大きな役割
- ➡ グリーン・リカバリー推進にも主役として立ち回り
- ➡ 政府と非政府が一体となって協働する時代



# なぜ非国家アクターが重要になってきたのか

## 1. パリ協定が成立した立役者

現場レベルからの温暖化対策が国の対策を押し上げ  
COP20リマ会議から始まったCOPにおける非国家アクター祭り

## 2. 国連や国際機関の全面的な後押し

Global Compact～、NAZCA Platformなど

## 3. 国境や業種を越えた協働を可能とする組織化

(背後に国際NGOの事務局あり)

例: 米Wearestillin、日JCIなど

CDP(Aリストなどの差別化)、SBT認証、RE100、RSPO等

## 4. 投資家の目: 選別基準としてのイニシアティブ

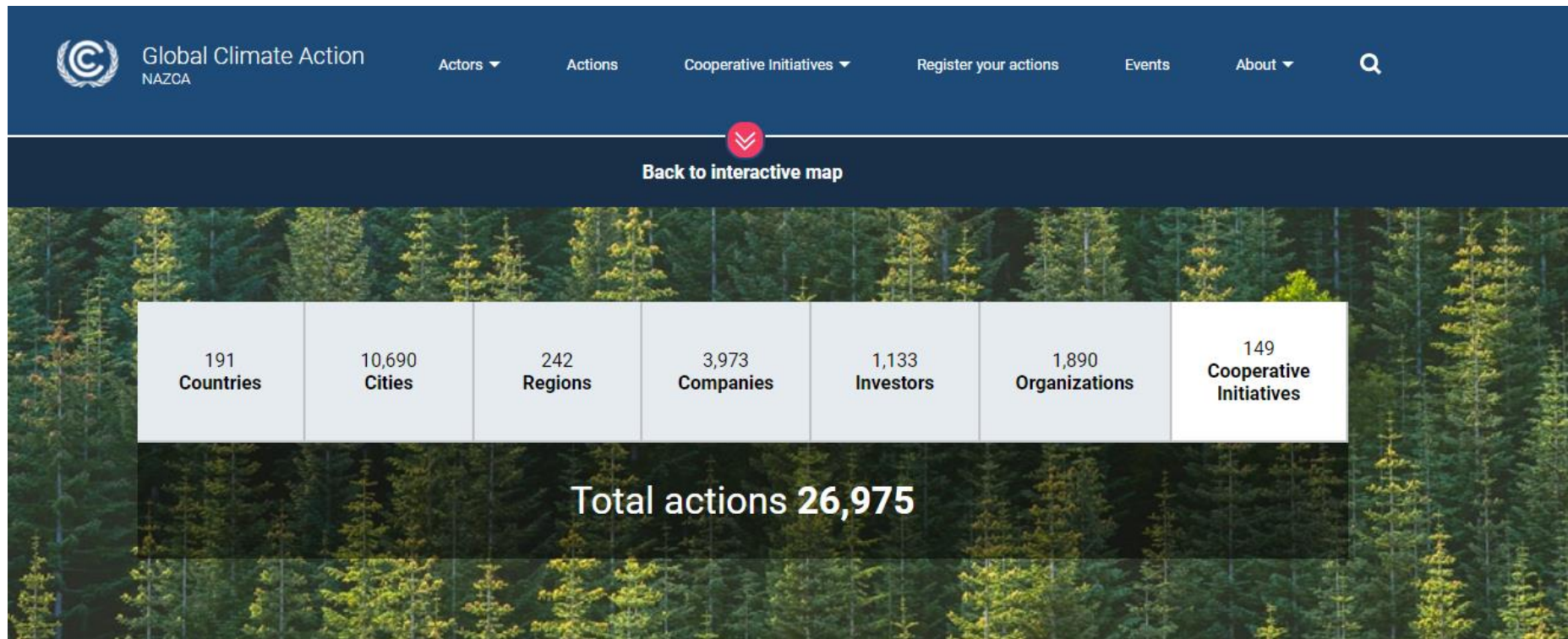
TCFDなどの金融機関の動き

CDPのAリストやSBTなどが投資基準に



# UNFCCC Global Climate Action NAZCA

<https://climateaction.unfccc.int/>



気候変動に関する国連COP会議  
各国交渉官による会議と並んで非国家アクターの祭典



# COP25会場で 非国家アクターイニシアティブのさらなる活性化 → COPの**主要な立役者**





# 非国家アクターの台頭

## 代表例: アメリカのWe Are Still In (WASI)



<http://www.wearestillin.com>

- ▶ 1200以上の企業、都市、州、大学などがパリ協定支持を即座に表明。
- ▶ 約3800の主体が参加している。
- ▶ カリフォルニア州、ニューヨーク州、ボストン市、サンフランシスコ市、シカゴ市、ピッツバーグ市、コロンビア大学、アマゾン、Apple、マイクロソフト、Gap、HP、ウォルマート等が参加。

# 米トランプ大統領 パリ協定離脱を通告(2019/11/4) ただちにWASI幾多の声明

WE ARE  
STILL IN

About

Who's In?

News

Success Stories

Climate Contributions

Take Action

トランプが  
出ても、  
我々はまだ  
いる

## President Trump Wants Out - We Are Still In

We Are Still In is a coalition of cities, states, tribes, businesses, universities, healthcare organizations, and faith groups. As they did in 2017, they strongly oppose the US withdrawal from Paris, and are not going to take a retreat from the the global response to the climate crisis lying down.

AN AMERICAN MAJORITY REMAINS COMMITTED TO CLIMATE ACTION →

### RESPONSES TO WITHDRAWAL

- Statement from Mike Bloomberg
- We Are Still In Returns to UN Climate Talks
- Select Statements from WASI Signatories
- Statement from College and University Presidents
- Statement from Outdoor Industry Businesses
- Statement from Pittsburgh Mayor Bill Peduto
- Statement from Chair Castor, Select Committee on the

アメリカの大多  
数は気候行動  
にコミット

<http://www.wearestillin.com>

# パリ協定と整合した削減目標の策定を推進するSBTi



## COMMIT TO SETTING SCIENCE-BASED TARGETS

<http://sciencebasedtargets.org/>

### 日本からの参加企業 (2020年8月19日時点)

緑字：SBTから承認まで得ている企業

- |                    |                   |                  |                 |
|--------------------|-------------------|------------------|-----------------|
| ● ソニー              | ● アスクル            | ● 日本板硝子          | ● 小林製薬          |
| ● 第一三共             | ● アサヒグループホールディングス | ● 大鵬薬品工業         | ● 住友電工          |
| ● 川崎汽船             | ● 野村総合研究所         | ● J. フロントリテイリング  | ● 高砂香料工業        |
| ● コニカミノルタ          | ● 住友化学            | ● ニコン            | ● 東京海上ホールディングス  |
| ● キリンホールディングス      | ● アステラス製薬         | ● アンリツ           | ● 東芝            |
| ● 小松製作所            | ● 日本電気            | ● 安藤・間           | ● トヨタ自動車        |
| ● リコー              | ● セイコーエプソン        | ● 島津製作所          | ● 日産自動車         |
| ● ナブテスコ            | ● YKK AP          | ● 三菱電機           | ● 日新電機          |
| ● 戸田建設             | ● イオン             | ● シャープ           | ● 日本電信電話(NTT)   |
| ● 富士通              | ● 大成建設            | ● ジェネックス         | ● 浜松ホトニクス       |
| ● 電通               | ● 大東建託            | ● テルモ            | ● 日立キャピタル       |
| ● パナソニック           | ● 凸版印刷            | ● ファミリーマート       | ● 日立製作所         |
| ● 富士フイルムホールディングス   | ● 日本たばこ産業         | ● SCREENホールディングス | ● ファーストリテイリング   |
| ● LIXILグループ        | ● エーザイ            | ● 武田薬品工業         | ● ベネッセコーポレーション  |
| ● 丸井グループ           | ● 日立建機            | ● コマニー           | ● 都田建設          |
| ● 積水ハウス            | ● 三菱地所            | ● 不二製油グループ本社     | ● 村田製作所         |
| ● ユニ・チャーム          | ● アズビル            | ● 東急建設           | ● 明電舎           |
| ● サントリー食品インターナショナル | ● 京セラ             | ● 味の素            | ● ヤマハ発動機        |
| ● サントリーホールディングス    | ● ヤマハ             | ● NTTデータ         | ● ANAホールディングス   |
| ● 日本郵船             | ● 花王              | ● 日清食品ホールディングス   | ● MS&ADホールディングス |
| ● 積水化学工業           | ● ウシオ電機           | ● ウェイストボックス      | ● SOMPOホールディングス |
| ● 大日本印刷            | ● 小野薬品工業          | ● ライオン           | ● YKK           |
| ● プラザ工業            | ● 古河電気工業          | ● エスベック          |                 |
| ● 大和ハウス工業          | ● 清水建設            | ● オムロン           |                 |
| ● 住友林業             | ● 前田建設工業          | ● カシオ計算機         |                 |
| ● アシックス            | ● 大塚製薬            | ● 国際航業           |                 |



# 「再生可能エネルギー100%」を約束する企業イニシアティブ

## 世界で235社、日本からは33社



参加企業の一部:いまでも続々と参加企業が増加中



# 背後で国際NGOが支える NGOと企業(特に今は投資家)の協働

日本経済新聞

朝刊・夕刊 ストーリー Myニュー

日経2019年10月31日

トップ 速報 マネー 経済・金融 政治 ビジネス マーケット テクノロジー 国際 オピニオン スポーツ 社会

有料会員限定 記事 今月の閲覧本数: 10 本中 2 本

環境に人権 投資家がNGOに頼り始めた

編集委員 小平龍四郎

小平 龍四郎

2019/10/31 13:30 | 日本経済新聞 電子版

保存 共有 印刷 共有 ツイート その他



ドイツなど欧州では石炭火力発電所への反対の声が強まっている＝ロイター

グローバル資本市場で非政府組織（NGO）の影響力が強まってきた。ESG（環境・社会・企業統治）投資の広がりとともに、NGOの調査や知見が求められるようになったからだ。市場の「外」の存在だったNGOが「内」に入り込み、投資家の行動や企業の戦略決定を多面的なものにする。

「NGOは投資やビジネスとは別の世界に軸足を置き、どちらかといえば資本主義的な活動と対立する存在と考えられがちだった。特に市民社会が未成熟な日本では、そうした考え方が強かった。」

しかしながら、グローバル資本市場でESGの潮流が勢いを増し、ビジネスの世界で持続可能性が重視されるようになった今、従来と異なる見方や発想も必要だ。

市場や企業への知見の提供者としてNGOが存在感を高める様子は「資本主義の新しいかたち」をも想起させる。」



# 政府が国際イニシアティブのサポートをする時代



申請・お問合せ English サイトマップ 本文へ 文字サイズ変更 国 語

ニュースリリース 会見・談話 審議会・研究会 統計

ホーム ▶ 政策について ▶ 政策一覧 ▶ エネルギー・環境 ▶ 環境化対策 ▶ 気候変動をめぐる国際的なイニシアティブへの対応

## 気候変動をめぐる国際的なイニシアティブへの対応

昨今、グローバル企業の気候変動対策についての情報開示・評価の国際的イニシアティブ（CDP、RE100、SBT等）の影響力が拡大しています。これらのイニシアティブでは温室効果ガス（GHG）排出量の算定・報告の基準として「GHGプロトコル」を推奨しており、これが国際的にデファクトスタンダード化しつつあります。

しかしながら、GHGプロトコルの各種基準の中でも調達した電気に関する温室効果ガス排出量の算定について記載した「スコープ2ガイドライン」の算定方法が分かりにくいという声が聞かれます。また、日本において企業が再生可能エネルギーを調達し、国際的に主張するための十分な情報が整理・提供されていない状況にあります。

### 国際的な気候変動イニシアティブへの対応に関するガイダンス

このため、経済産業省では、環境省とも連携し「我が国企業による国際的な気候変動イニシアティブへの対応に関する研究会」を2018年10月に設置し、3回にわたる議論を踏まえ、日本の現行制度の下で企業がGHGプロトコルに適合したGHG排出量の算定や再生エネルギーとしての価値を取得・主張するための具体的な方法をまとめた「国際的な気候変動イニシアティブへの対応に関するガイダンス～日本において再生エネルギーを活用する企業のためのスコープ2ガイドラインへの対応～」を2019年3月に策定・公表しました。

さらに、2020年3月には、同ガイダンスに再生可能エネルギー（熱）の記述を加え、また、国際的な気候変動イニシアティブの状況を最新の情報にアップデートすることで、さらに事業者の皆様には有益なものとなるよう改定しました。

■ 国際的な気候変動イニシアティブへの対応に関するガイダンス（2020年3月版）（PDF形式：4,994KB）

なお、「国際的な気候変動イニシアティブへの対応に関するガイダンス」に関するご意見・ご質問がある場合には、下記フォーマットをコピーの上、以下連絡先までメールにてご連絡ください。

いただいたご意見・ご質問については、事務局内限りの取り扱いとさせていただきます。今後のガイダンス見直しに向けた貴重なご意見として活用させていただきます。メールアドレスその他、記載された個人情報については、他の用途に使用いたしません。

## 経産省

## 「国際的な気候変動イニシアティブへの対応に関するガイダンス」 2020年3月版

昨今、グローバル企業の気候変動対策についての情報開示・評価の国際的イニシアティブ（CDP、RE100、SBT等）の影響力が拡大しています。



▶ 本文へ ▶ 音声読み上げ・文字版

## 環境省

## 「SBT目標設定支援事業」及び「中小企業向けSBT・再エネ100%目標設定支援事業」

## 報道発表資料

[ホーム](#) > [報道・広報](#) > [報道発表資料](#) > 令和元年度「SBT目標設定支援事業」、「中小企業向けSBT・再エネ100%目標設定支援事業」

令和元年8月6日 地球環境

この記事を印刷

## 令和元年度「SBT目標設定支援事業」、「中小企業向けSBT・再エネ100%目標設定支援事業」参加企業決定について

環境省では今般、「SBT目標設定支援事業」及び「中小企業向けSBT・再エネ100%目標設定支援事業」に参加する企業を決定いたしましたのでお知らせいたします。



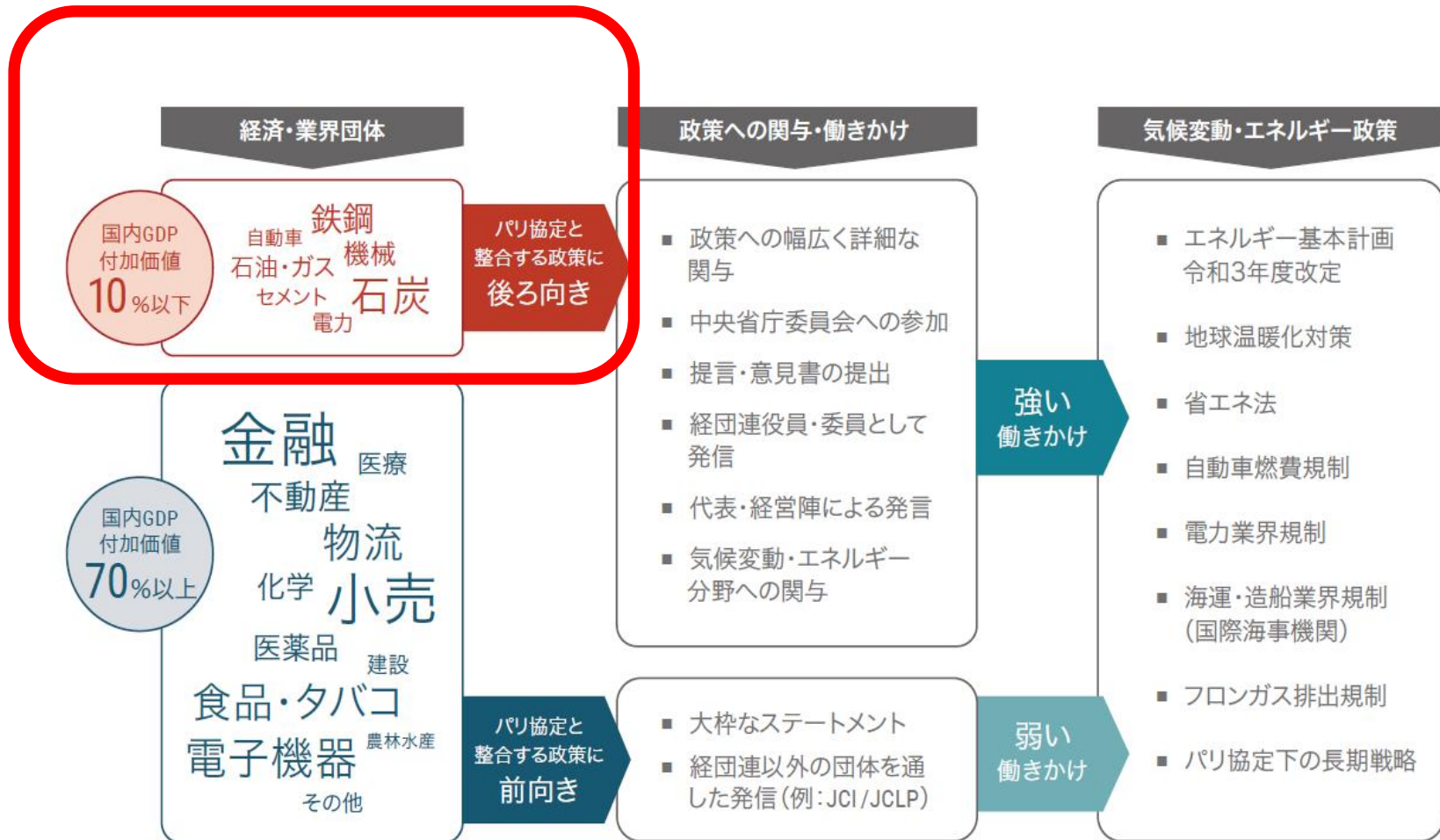
# Fridays For Future 世界の若者のうねり



(2) なぜ日本ではグリーン・リカバリーや  
気候危機対策が進みにくいのか？

➡ 産業シフトへの抵抗感、変化は？

# 脱炭素社会とは、既存のやり方を変えること 産業シフトへの抵抗感



△ 日本の気候変動・エネルギー政策への関与

© INFLUENCEMAP

(3) 旧産業から新産業へ、  
産業構造の転換をはかるためには？

➡ Just Transition(公正な移行)  
＝“支援”の必要性



# Just transition (公正な移行) の重要性 すなわち、旧産業から新産業への移行の支援 (雇用シフトの再教育支援など)



## 欧州連合

European Just  
Transition Fund  
(グリーンリカバリーの一環)(2020年6月)  
石炭産業などから公正な移行するための  
プラットフォーム  
「公正な移行基金」に  
4000億ユーロ

Home > Press corner > Commission launch the European Just Transition Platform

Available languages: English

Press release | 26 June 2020 | Brussels

## Green Deal: Coal and other carbon-intensive regions and the Commission launch the European Just Transition Platform

Page contents

Top

Print friendly pdf

Press contact

On Monday 29 June, the Just Transition Platform (JTP) will be launched to help Member States to draw up their territorial Just Transition Plans and access funding from the over €150 billion Just Transition Mechanism. This online Platform will provide technical and advisory support for public and private stakeholders in coal and other carbon-intensive regions, with easy access to information on funding opportunities and sources of technical assistance.

The Platform will ensure that the €40 billion (in 2018 constant prices) proposed under the Just Transition Fund is channelled to the right projects and that no region is left behind. It will also support access to

日本の民間一例: JERA  
火力発電の会社が、台湾  
の洋上風力発電に大規模  
出資、火力発電経験者を  
風力発電へ



# WWF気候・エネルギーグループ climatechange@wwf.or.jp



非常に複雑化している地球温暖化とエネルギーをめぐる全体像を、一冊で「わかった！」と理解が進む本♪

「地球温暖化は解決できるか  
～パリ協定から未来へ～」  
小西雅子 著  
岩波ジュニア新書837



ご参考



WWF ジャパン  
〒100-0073  
東京都港区三田1-4-29  
三田ビル3F

Tel: 03-3769-1711(代)  
Fax: 03-3769-1717  
www.wwf.or.jp

## Statement

For immediate release – 2020年5月8日

### 新型コロナウイルス感染症の経済影響からの「グリーン」な回復を

脱炭素社会志向により豊かな復興に繋がる

WWF ジャパンは、新型コロナウイルス感染症拡大に端を発し今後本格化していくと予想される経済回復に向けた対策議論について、気候変動・エネルギー対策の観点から、以下の通り提言をする。

日本では、新型コロナウイルス感染症拡大の危機からの出口が見えていない。「経済回復」を語るには早すぎるかもしれないこの時期に、あえてこうした提言を発表するのは、すでに経済回復に向けた議論が各所ではじまっており、政府も4月7日の時点で「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」（以下「政府経済対策」）を発表していること、そして、国際的にも「グリーンな回復（Green Recovery）」や「Build Back Better（より良い形への復興）」を目指すべきという議論が始まっていることからである。

#### 経済回復と温暖化対策はトレードオフではない

現在、新型コロナウイルス感染症拡大の経済影響を背景として、世界的に温室効果ガス排出量が減っているという推計がある（※1）。しかし、現状の変化は、経済活動停滞による一時的なものであり、根本にある化石燃料依存型のエネルギー経済体制を能動的に変えない限り、経済のうちに回復した場合、排出量はもとに戻ってしまう。特に温暖化対策を経済回復の妨げと捉え、従来型の経済回復のみを優先する場合には、むしろコロナ禍前より増加する可能性がある。パリ協定時代に、温暖化対策と経済回復をトレードオフと捉えるべきではない。

#### 回復に向けた経済対策では脱炭素社会への移行につながるものを優先すること

新型コロナウイルス感染症拡大の経済影響から、「回復する先」は今までと同じエネルギー経済体制ではなく、より脱炭素社会への移行を意図した、持続可能なエネルギー経済体制を目指すべきである。それこそが長期的に見て成長機会が巨大な脱炭素型経済へ向けて、日本の産業が後れを取りもどし国際競争力をつける契機となる。

たとえば、在宅勤務実施を余儀なくされた職場の拡大によって、これまで普及しなかったテレワークやオンライン会議が一般に普及した。現在のように、準備も不十分な状況でテレワークが継続することは望ましくないが、テレワークやオンライン会議を適切に活用することで、航空機などの移動によるCO2排出量を減らすことができる道は開かれたといえる。「回復」する先は、元の通りの働き方ではなく、より人々にも職場にも、そして環境にとってもよい形を目指すべきである。

今後、回復に向けた経済対策として影響があった産業への支援が検討・実施されていく。実際「政府経済対策」でもすでに支援策が盛り込まれている。それらの実施に当たっては、最も影響を受けた人々の救済という視点に加え、脱炭素社会への移行に役立つかを基準の1つとして盛り込むべ

このプレスリリースと関連資料はWWF日本のウェブサイトでもご覧いただけます (http://www.wwf.or.jp)  
WWF=World Wide Fund For Nature (also known as World Wildlife Fund)

- ▶ 経済回復と温暖化対策はトレードオフではない
- ▶ 回復に向けた経済対策では脱炭素社会への移行につながるものを優先すること
- ▶ 気候危機は別な形での感染症拡大のリスクを持つ
- ▶ 地域のレジリエンスを長期的に高める方向でコロナ禍に対応する

（参照） WWFジャパン（2020）「新型コロナウイルス感染症の経済影響からの「グリーン」な回復を」  
<https://www.wwf.or.jp/activities/statement/4313.html>

# COP26延期の影響は？

- ・すでにパリ協定の実施ルールは殆ど決まっており、パリ協定実施に支障はない。パリ協定作業計画に沿った事務方会合はバーチャルで進んでいる

## 6月バーチャル会合June Momentum for Climate Change

### 【閣僚級】

- ・パンデミック・気候危機ともに中長期の対応が必要。経済復興策をパリ協定やSDGsに沿わせること
- ・強化されたNDCの再提出を早期に促す

### 【非国家アクターのさらなる台頭】

- ・非国家アクター(ビジネスリーダー、都市や自治体リーダー、市民社会リーダー等)も閣僚級会合に参加「コロナ禍においても脱炭素化へ向けての協調を議論、特に電力と交通部門。グリーン・レジリエント経済復興パッケージが脱炭素化を志向すべき、労働市場へのインパクトはPV市場での雇用増の機会

### 【小西個人的見解】

- ・パリ協定はすでに枠組みができているため、実施に支障はない
- ・COPなどパリ協定関連行事は今や**温暖化対策経済活動の“見本市”**
- ・パリ協定の担い手は多様化している。企業、特に金融部門が中長期的視野で、気候危機対策を重視し、多様な活動を展開⇒コロナも気候危機も中長期対応が必要、となると気候危機対策を実施しない国や企業は淘汰される方向ではないか

(参考) <https://www.gov.uk/government/news/cop26-president-at-opening-of-june-momentum-for-climate-change>

# 欧州委員会は欧州グリーンディールを回復策の中心に



**Ursula von der Leyen** #UnitedAgainstCoronavirus ✓ ... · 4月28日 ▾

As we start to rebuild our economies after the coronavirus, we need to invest in smartly. Our compass will remain the #EUGreenDeal, which can transform our economies and societies to confront climate change. For the future of our planet and our children. #GreenRecovery 🌍



488

943

2,332



フォン・デア・ライエン  
欧州委員長は、ビデオ声明の中で、「欧州グリーンディール」を回復策検討に当たっても指針とすることを宣言。

出典

Simon, Frédéric. (2020) Green Deal will be 'our motor for the recovery', von der Leyen says.

<https://www.euractiv.com/section/energy-environment/news/green-deal-will-be-our-motor-for-the-recovery-von-der-leyen-says/>





# European Green Recovery Alliance (欧州議会 + 企業CEO、市民社会)

## GREENRECOVERY

REBOOT & REBOOST our economies for a sustainable future

### Call for mobilisation

The coronavirus crisis is shaking the whole world, with devastating consequences across Europe. We are being put to the test. We are suffering and mourning our losses, and this crisis is testing the limits of our system. It is also a test of our great European solidarity and of our institutions, which acted fast at the start of the crisis to deploy measures to protect us. The crisis is still ongoing, but we will see the light at the end of the tunnel, and by fighting together, we will beat the virus.

Never have we faced such a challenging situation in peacetime. The fight against the pandemic is our top priority and everything that is needed to stop it and eradicate the virus must be done. We welcome and strongly support all the actions developed by governments, EU institutions, local authorities, scientists, medical staff, volunteers, citizens and economic actors.

In this tremendously difficult situation, we are also facing another crisis: a shock to our economy tougher than the 2008 crisis. The major shock to the economy and workers created by the pandemic calls for a strong coordinated economic response. We therefore welcome the declaration of European leaders stating that they will do "whatever it takes" to tackle the social and economic consequences of this crisis. However, what worked for the 2008 financial crisis may not be sufficient to overcome this one. The economic recovery will only come with massive investments to protect and create jobs and to support all the companies, regions and sectors that have suffered from the economy coming to a sudden halt.

After the crisis, the time will come to rebuild. This moment of recovery will be an opportunity to rethink our society and develop a new model of prosperity. This new model will have to answer to our needs and priorities.

These massive investments must trigger a new European economic model: more resilient, more protective, more sovereign and more inclusive. All these requirements lie in an economy built around Green principles. Indeed, the transition to a climate-neutral economy, the protection of biodiversity and the transformation of agri-food systems have the potential to rapidly deliver jobs, growth and improve the way of life of all citizens worldwide, and to contribute to building more resilient societies.

This is not a matter of creating a new economy from scratch. We already have all the tools and many new technologies. Over the last 10 years, tremendous progress has been made in most transition sectors, developing new technologies and value chain, and dramatically reducing the cost of the transition (including inter alia: renewable energy, zero emission mobility, agroecology, energy efficiency...). 10 years ago, zero-emission vehicles were only a prototype. 10 years ago, wind energy was three times more expensive than it is today, and solar energy seven times. 10 years ago, we had not carried out renovation work on buildings showing that this action is profitable.

Political will is here. We already have the plans and strategy. Projects such as the European Green Deal, and other national zero carbon development plans have a huge potential to build back our economy and contribute to creating a new prosperity model. We therefore consider that we need to prepare Europe for the future, and

- ▶ 欧州議会の環境・公衆衛生委員会委員長であるパスカル・カンファン議員の呼びかけで、4月14日に結成。
- ▶ 79の欧州議会議員に加えて、37の企業CEO、28の企業連合、労働組合連合、7つのNGOおよび6つノシンクタンクが名前を連ねている。企業CEOの中には、イケア、H&Mやユニリーバなどの名前も。
- ▶ その後、AXA、アリアンツ、BNPパリバ・アセットマネジメント等を含む50の機関が参加(5月5日)

“我々は、党派を超えた政治的意思決定者、ビジネス・金融リーダー、労働組合、NGO、シンクタンク、ステークホルダーのグローバルな連盟で、気候中立的で健全なエコシステムへの移行を加速する「グリーン復興投資パッケージ」確立の支持・実施することを呼びかける”

出典

Simon, Frédéric. (2020) Green recovery alliance' launched in European Parliament. EURACTIV.com  
<https://www.euractiv.com/section/energy-environment/news/green-recovery-alliance-launched-in-european-parliament/>  
Simon, Frédéric. (2020) Financiers join EU 'green recovery alliance'.  
<https://www.euractiv.com/section/energy-environment/news/financiers-join-eu-green-recovery-alliance/>

# フランス：航空会社への支援策に対策を条件付ける



- ▶ 4月29日、エールフランスに対する支援策の条件として、CO2削減目標、航空機の更新、持続可能な代替燃料導入を条件として宣言。

## 条件

- 国内フライトからのCO2排出量を2024年までに50%削減
- 排出量の少ない機体への更新
- 2025年までに2%の持続可能な代替燃料の導入。
- 2時間半未満の代替鉄道手段がある目的地間のフライト削減



Transport and Environment、Carbon Market Watch、グリーンピースは、これらの条件が義務的なものではないことなどを批判

出典

FlightGlobal (2020) French government sets green conditions for Air France bailout.

<https://www.flightglobal.com/strategy/french-government-sets-green-conditions-for-air-france-bailout/138160.article>

フランスのブリュノ・ル・メール経済・財務大臣のツイート

<https://twitter.com/BrunoLeMaire/status/1255506914273828867?s=20>

Transport and Environment (2020) Airline bailouts set to double to €26bn as countries fail to impose binding green conditions.

<https://www.transportenvironment.org/press/airline-bailouts-set-double-€26bn-countries-fail-impose-binding-green-conditions> 51

# カナダ：大企業への支援策に気候関連情報開示を条件付け



- ▶ カナダ政府は、雇用を守るための支援策として、大企業に対してLEEFF(大規模雇用者向け緊急支援ファシリティ)を設立することを5月11日に発表。
- ▶ 同ファシリティの支援を受ける条件として、企業は、TCFDの提言に沿った気候変動関連情報の開示を 年次報告書において行うことを定めている。

出典

Prime Minister announces additional support for businesses to help save Canadian jobs

<https://pm.gc.ca/en/news/news-releases/2020/05/11/prime-minister-announces-additional-support-businesses-help-save>

# C40参加都市の有志による宣言およびタスクフォース結成

## PRESS RELEASE



### "No Return to Business as Usual": Mayors Pledge on COVID-19 Economic Recovery

*C40 mayors issue call for a healthy, equitable and sustainable economic recovery to COVID-19 pandemic.*

*Statement endorsed by mayors of Los Angeles, Athens, Austin, Barcelona, Bogotá, Boston, Buenos Aires, Chicago, Copenhagen, Curitiba, Durban, Freetown, Hong Kong, Houston, Lima, Lisbon, London, Medellín, Melbourne, Mexico City, Milan, Montréal, New Orleans, New York City, Oslo, Portland, Queson City, Rotterdam, Salvador, São Paulo, San Francisco, Santiago, Seattle, Seoul, Sydney, Tel Aviv-Yafo, Vancouver*

**London, 07 May** - Mayors from many of the world's most powerful cities have warned that the recovery from COVID-19 "should not be a return to 'business as usual' - because that is a world on track for 3°C or more of over-heating."

The C40 group of cities released a statement of principles to shape the recovery from the COVID-19 crisis. Mayors, representing more than 750 million people worldwide, pledge "to build a better, more sustainable and fairer society out of the recovery from the COVID-19 crisis."

The principles were adopted in the first meeting of C40's [Global Mayors COVID-19 Recovery Task Force](#), supported by C40 Chair, Mayor of Los Angeles, Eric Garcetti, and have been endorsed by scores of city leaders from around the world, including Los Angeles, Athens, Austin, Barcelona, Bogotá, Boston, Buenos Aires, Chicago, Copenhagen, Curitiba, Durban, Freetown, Hong Kong, Houston, Lima, Lisbon, London, Medellín, Melbourne, Mexico City, Milan, Montréal, New Orleans, New York City, Oslo, Portland, Queson City, Rotterdam, Salvador, São Paulo, San Francisco, Santiago, Seattle, Seoul, Sydney, Tel Aviv-Yafo and Vancouver.

Today's announcement comes after a series of virtual meetings attended by more than 40 mayors, demonstrating how they are working together globally to overcome both the coronavirus and climate change crises.

#### The Global Mayors COVID-19 Recovery Task Force

The Task Force will establish a common framework that all of C40's global membership can use to create a "new normal" for city economies; agree upon concrete measures they can put in place for recovery; how to communicate about the climate crisis in a post-COVID-19 world; and how can they influence stimulus packages and interventions to support the necessary transition to a more sustainable, low-carbon, inclusive and healthier economy for people and the planet.

- ▶ 公衆衛生を改善し、不平等を減らし、そして気候危機に対処するような方法で、都市・経済を再構築するための「世界の首長による新型コロナウイルスからの回復タスクフォース」を5月7日に発足。
- ▶ 同タスクフォースの「原則」に賛同している都市は、ロサンゼルス、ボストン、ブエノスアイレス、コペンハーゲン、リマ、メキシコシティ、ニューヨーク、シドニー、ソウル等の39の都市（日本からはゼロ）（6月16日現在）

The recovery should not be a return to 'business as usual' - because that is a world on track for 3° C or more of over-heating;

“原則1 回復は、これまで通りの生活 (business as usual) への回帰であってはならない。なぜなら、それは世界を3°C以上の気温上昇へと向かう道だから。”

出典 C40 (2020) "No Return to Business as Usual": Mayors Pledge on COVID-19 Economic Recovery  
[https://www.c40.org/press\\_releases/taskforce-principles](https://www.c40.org/press_releases/taskforce-principles)

# 投資家グループからも「持続可能な回復」を求める声明



## THE INVESTOR AGENDA: A SUSTAINABLE RECOVERY FROM THE COVID-19 PANDEMIC

The deadly outbreak of the COVID-19 pandemic has disrupted our lives and livelihoods, communities and economies. As the heads of the founding partners of The Investor Agenda - organisations that work with investors with millions of beneficiaries around the world and managing trillions of dollars in assets - we recognise governments' immediate priorities must be intervening to save human lives and providing economic and financial relief to support the most vulnerable, stem the health crisis and curb economic disruption.

Many governments are now beginning to consider economic recovery measures to address the acute shock and impacts of the COVID-19 pandemic. With trillions of dollars in capital under their management, investors will be critical to accelerating the recovery as it will require the efficient and equitable deployment of both public and private capital in fiscally-challenging times. Institutional investors take a long-term view of value and returns, and are therefore well placed to assist governments devise multi-year recovery efforts.

As governments pursue efforts to recover from this economic downturn, they should not lose sight of the climate crisis. They must factor in the foreseeable, acute, systemic and compounding climate-related economic and financial risks. Investors increasingly face physical and transitional risks from a rapidly warming planet that challenge their ability to deliver long-term returns for their beneficiaries.

At the same time investors understand that accelerating the net zero emissions transition can create significant new employment and economic growth, along with other co-benefits such as energy security and clean air. With effective recovery policies in place, private investment could be channelled to accelerate the development of new sustainable and climate adaptation assets.

An accelerated transition to a net zero emissions economy in line with the Paris Agreement is also critical to building greater resilience that will enhance the ability of our communities and economies to absorb both acute and systemic shocks.

Ultimately, in their recovery plans, governments should prioritise sustainability and equity, and accelerate the transition to a net zero emissions economy to mitigate climate risk, create new jobs and catalyse the sustainable deployment of private capital. Recovery plans that exacerbate climate change would expose investors and national economies to escalating financial, health and social risks in the coming years. Governments should avoid the prioritisation of risky, short-term emissions-intensive projects.

Economic recovery efforts are best directed to where job creation can be matched with net zero emissions energy, industrial, building and transport systems, along with climate resilience measures and other sustainable infrastructure that will strengthen our societies and maintain natural systems. Preparing for and responding to large-scale disruptions like pandemics and climate change also requires investments in scenario testing.

- ▶ 気候変動問題に関心のある投資家関連グループ7つが合同で宣言を発表(5月4日)。

### “持続可能な回復に向けた提言

- 1) 人道支援・雇用創出を重視する
- 2) パリ協定を堅持する
- 3) COVID-19関連の政府支援は気候危機も考慮する
- 4) 気候変動に対するレジリエンスおよびネットゼロ排出経済への解決策を重視する
- 5) 回復計画検討の中に投資家の参加も組み込む”

### 参加グループ

AIGCC (Asia Investor Group on Climate Change)、CDP、Ceres、IGCC (Investor Group on Climate Change)、IIGCC(Institutional Investor Group on Climate Change)、PRI (Principles for Responsible Investment)、UNEP-FI

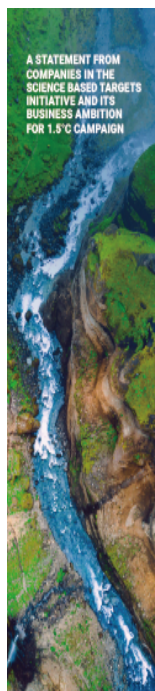
出典

The Investor Agenda. (2020) The Investor Agenda Founding Partners Call for a Sustainable Recovery from the COVID-19 Pandemic.

<https://theinvestoragenda.org/wp-content/uploads/2020/05/040520-Media-Release-Investor-Agenda-Sustainable-Recovery.pdf>



# 企業からのネットゼロ・リカバリー声明



## UNITING BUSINESS AND GOVERNMENTS TO RECOVER BETTER

IN A TIME OF GLOBAL DISRUPTION, AMBITIOUS CLIMATE ACTION IS AS URGENT AS EVER

With the coronavirus (COVID-19), we are facing a global pandemic that is devastating people and their livelihoods, disrupting supply chains, profoundly deepening inequalities and undoing progress on the Sustainable Development Goals. At the same time, we continue to face a global climate emergency with irreversible impacts for people and all the natural systems that sustain us. In the face of these interconnected crises, we cannot afford to tackle one or the other: human health depends on planetary health. We can – and must – tackle both.

As countries work on economic aid and recovery packages in response to COVID-19, and as they prepare to submit enhanced national climate plans under the Paris Agreement, we are calling on Governments to reimagine a better future grounded in bold climate action. As we are setting ambitious corporate emission reduction targets through the Science Based Targets initiative and its Business Ambition for 1.5°C campaign, we remain committed to do our part to achieve a resilient, zero carbon economy. We are now urging Governments to prioritize a faster and fairer transition from a grey to a green economy by aligning policies and recovery plans with the latest climate science.

We must move beyond business as usual and work together in solidarity to deliver the greatest impact for people, prosperity and the planet. To recover better from COVID-19, we will continue to:



BUSINESS AMBITION FOR 1.5°C

**1 Demonstrate that the best decisions and actions are grounded in science.**  
By implementing ambitious science-based targets, we aim to set the world on a 1.5°C trajectory leading to healthier and safer people, and a healthier and safer planet.

**2 Invest in recovery and resilience for a systemic socio-economic transformation.**  
By diverting from fossil fuels and innovating in low carbon, resilient solutions, we are prioritizing green jobs and sustainable growth, protecting nature and people, and delivering on the 2030 Agenda and the Paris Agreement.

**3 Work with Governments and scale up the movement.**  
By advocating for enabling policies aligned with a 1.5°C trajectory and zero carbon economy, we look to policy makers to give businesses the confidence and clarity they need to take ambitious climate action.

To ensure we recover better, we are calling on Governments and policy-makers to match our ambitions in their recovery efforts aligned with reaching net-zero emissions well before 2050.

If we work together, these efforts will help reduce vulnerability to future shocks and disasters, and build community resilience. A systemic shift to a zero carbon and resilient economy is within our reach – our only future depends on making this vision a reality.

We hope you will join us.

- ▶ SBT、UNグローバル・コンパクト、We Mean Businessが、5月19日に合同で声明を発表。呼びかけに応えた**155の企業**が名前を連ねている(5月20日現在)。
- ▶ 日本企業は4社。参加企業のおよそ2/3は欧州。

“より良い復興に向け、我々は、政府および政策決定者に対して、復興に向けた取り組みの中で、2050年より前にネットゼロ排出量に到達することを目指す我々の野心に応えることを呼びかける”

## 参加している日本企業(全4社)

**前田建設工業、丸井グループ、高砂香料工業、YKK【太字はSBT目標承認済み】**

出典

Science Based Targets. (2020) Over 150 global corporations urge world leaders for net-zero recover.

<https://sciencebasedtargets.org/ceo-climate-statement/>

Rathi, Akshat and Seal, Thomas. (2020) Companies Worth \$2 Trillion Are Calling for a Green Recovery. Bloomberg Green.

<https://www.bloomberg.com/news/articles/2020-05-18/companies-worth-2-trillion-are-calling-for-a-green-recovery>

# 300社以上の米企業が気候変動対策を重視した回復を訴え



f t in

## LEAD on Climate 2020 Business Call to Action: Build Back Better

On May 13, more than 300 businesses in the largest-ever call to action from the business community to members of the U.S. Congress will call for a build back better strategy that recognizes the need for a resilient, clean energy economy.

LEAD on Climate 2020 will virtually bring together more than 300 businesses - large and small - from sectors across the U.S. economy, to call on Congress to pass a resilient economic recovery plan while working toward long term climate solutions—including a price on carbon.

- ▶ Adobe、General Mills、Mars, Inc.、Microsoft、NIKE、Salesforce、VISAなどを含む300以上の企業が気候変動対策を重視した回復（climate-smart recovery）を米国議会に対して呼びかけた（5月13日）。

“ビジネスは、「レジリエントなインフラストラクチャーへの投資」「米国がネットゼロ排出の経済へと移行するための投資」「炭素価格導入を含む、長期的な解決策」を求める”

出典

Ceres. (2020) Lead on Climate 2020: Business Call to Action: Build Back Better.  
<https://www.ceres.org/events/lead-climate-2020>

# 日本・JCI(気候変動イニシアティブ)の「緑の回復」メッセージ



コロナ危機を克服し、気候危機に挑む「緑の回復」へ

新型コロナウイルス感染の拡大は既に多くの人命を奪い、世界と日本の経済、企業の経営、雇用、更には社会生活に深刻な影響を与えています。いま最も重要なのは、国や自治体はもちろん、企業をはじめとする非政府アクターも、あらゆる対策を徹底し、一刻も早く感染拡大を収束させることであることは言うまでもありません。

こうした緊急の取組みを優先させつつ、忘れてならないのは人類の直面するもう一つの危機、気候危機の克服に向けた取組みの継続であり強化です。

感染拡大が引き起こす経済活動の停滞は、直近のエネルギー消費を抑制し、二酸化炭素排出量を減少させると予測されています。しかし、気候危機の克服に必要なのは、経済活動の縮小による短期的な排出削減ではなく、脱炭素型の社会・経済システムへの転換による、成長と両立する継続的で大幅な排出削減です。

気候危機への取組みが遅れば、台風、熱波、干ばつ、洪水など人命を脅かす自然災害が制御不可能なものとなってしまいます。さらに、気候変動はマラリアやデング熱などの感染症拡大をもたらすと予測されており、今まさに世界が経験しているような甚大な影響を再び引き起こす恐れもあります。

世界でも日本でも、コロナ危機後の経済対策についての議論が始まっています。気候変動対策を先導してきた欧州では、各国政府のみならず、多様な企業のグループから、経済回復に向けた投資を気候変動対策に貢献するものとする「緑の回復」が提言されています。

日本でも、コロナ危機からの回復を脱炭素社会への転換に向けた取組みと整合したものにする必要があります。気候変動イニシアティブに参加する多くの企業、自治体は RE100 に代表される自然エネルギー電力の拡大、カーボンニュートラルへの宣言などの取組みを先導的に進めてきました。感染拡大防止のため、エネルギー効率化としても重要なテレワークが急速に広がるという積極的な動きもあります。

私たちは、自らが脱炭素化に向けた取組みを継続・強化することを表明するとともに、国に対し、コロナ危機からの回復を化石燃料への依存を固定化するのではなく、脱炭素社会への転換に貢献する「緑の回復」とすることを求めます。

2020年5月13日

気候変動イニシアティブ運営委員会

運営委員会：一般社団法人 イクレイ日本、一般社団法人 エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク、一般社団法人 CDP Worldwide-Japan、公益財団法人 自然エネルギー財団、公益財団法人 世界自然保護基金ジャパン (WWF ジャパン)、日本気候リーダーズ・パートナーシップ (Japan-CLP)、フロンティア・ネットワーク (TFN)

## ▶ 気候変動イニシアティブ(JCI)運営委員会としての声明の発表(5月13日)。

「私たちは、自らが脱炭素化に向けた取組みを継続・強化することを表明するとともに、国に対し、コロナ危機からの回復を化石燃料への依存を固定化するものではなく、脱炭素社会への転換に貢献する「緑の回復」とすることを求めます」

出典 気候変動イニシアティブ運営委員会. (2020)「コロナ危機を克服し、気候危機に挑む『緑の回復』へ」

<https://japanclimate.org/news-topics/green-recovery/>



# SDGsとESG投資の21世紀

## コロナ禍からのグリーン・リカバリーは世界的注目

WWFジャパン見解(パリ協定との親和性からの視点で)

①新型コロナの感染拡大という恐怖の体験を通じ、有権者の間で科学の重要性が認識される機会になったこと

➡パリ協定は科学に忠実、世界共通の危機への対応、国際協調と共通ルール

②自治体・都市のリーダーシップが広く浸透したこと。政治リーダーの一部が「コロナ・ショック」を社会をいい方向へ変える好機ととらえ始めたこと

➡パリ協定担い手の多様化

③危機を前に消費者が働き方ライフスタイルのシフト

➡パリ協定順守への行動変容の期待

④グリーン・リカバリーは、エネルギーシフト投資。省エネ、再エネ、電化、循環社会化を復興策の中で重視

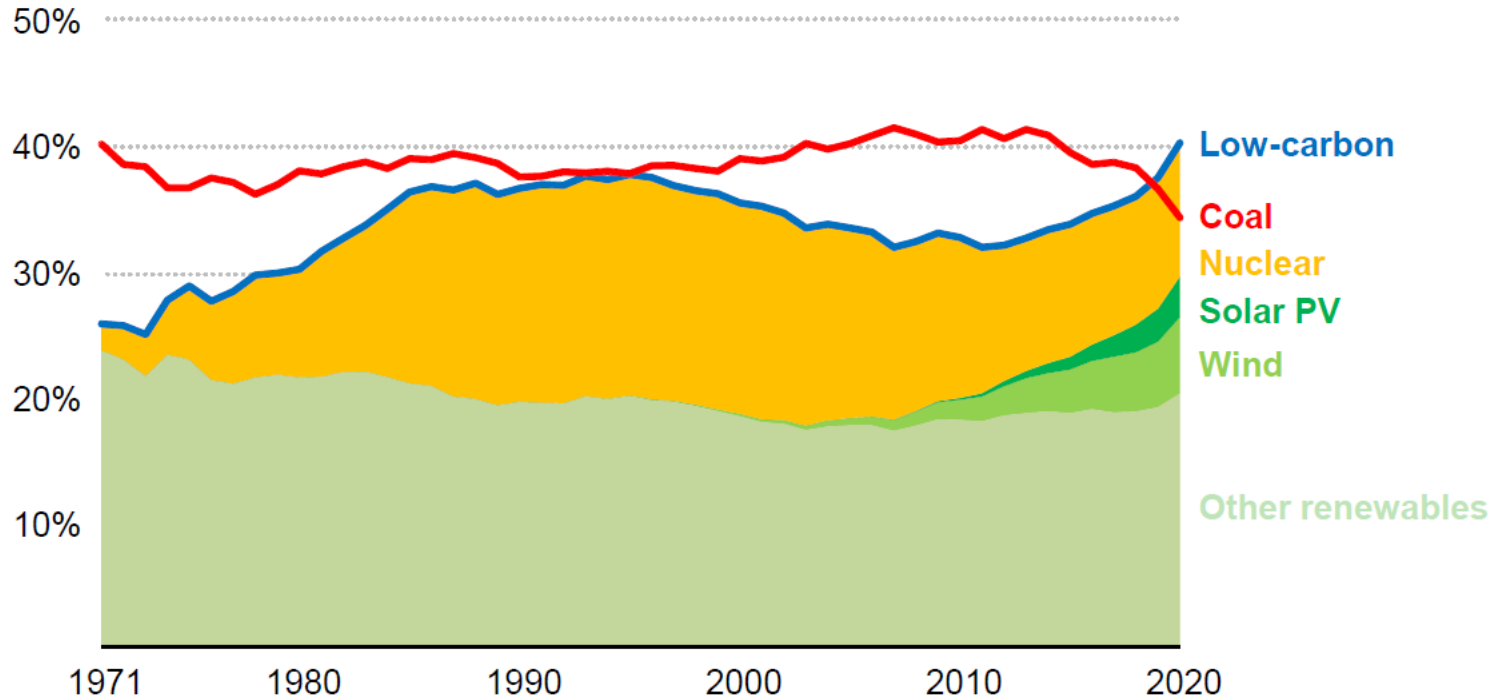
➡パリ協定緩和の王道と一致

⑤感染症対策強化は気候危機の影響へのレジリエンス強化

➡パリ協定適応策の一環

# 電力における化石燃料から再エネへのシフト

Global generation shares from coal and low-carbon sources, 1971-2020



- 化石燃料(石炭が最大)が急減、再エネのみ増加
- 電力需要2020年は5%減少(大恐慌以来)
- 50年間で初めて低炭素電源(再エネ・原発)が2019年に石炭火発を上回り、2020年も続く

出典: IEA, Global Energy Review, The impacts of the COVID-19 crisis on global energy demand and Co2 emissions, 2020/4/30



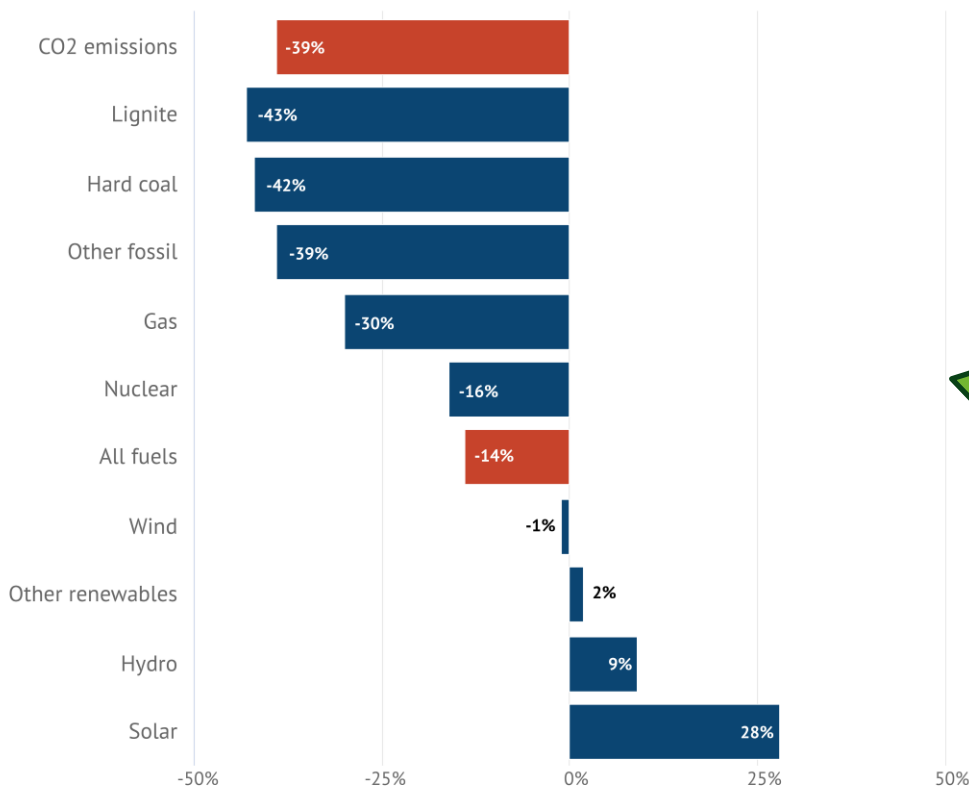


# コロナ禍で少し先の電力系統の姿

コロナで再エネ割合が増加する  
電力需要が減少し、再エネ優先接続で、化石燃料火力が抑制  
大量の変動電源導入時の制御が試されている

Coronavirus has cut CO2 from the EU's electricity system by 39%

Demand and fossil fuel power is down over the past 30 days versus the same time in 2019



・欧州27か国 電力需要が平均14%減

・一方で、好天のため、PV増加

・石炭・ガス火力抑制

・電力からのCO2が平均39%減少

出典: Dave Jones (Ember), Carbon Brief, The coronavirus pandemic has seen entire countries locked down, with businesses, industry and travel all curtailed in an effort to limit the spread of COVID-19.

<https://www.carbonbrief.org/analysis-coronavirus-has-cut-co2-from-europes-electricity-system-by-39-per-cent>

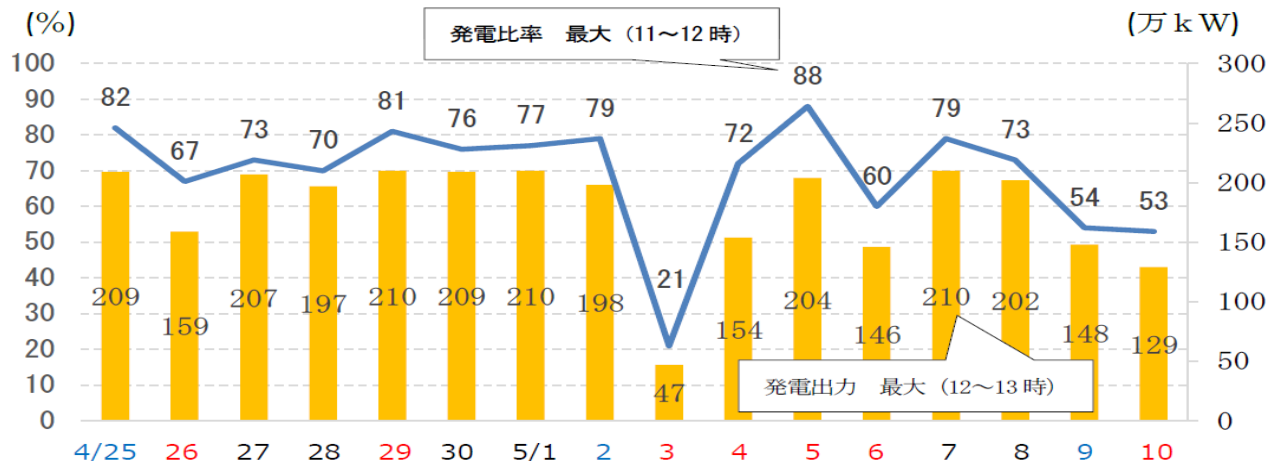


# 日本でも電力系統に優先接続の再エネ割合の増加

四国電力 5/5(祝) 太陽光88%

今年最大は4/5(日)再エネ110%と過去最高を更新(259万kW/エリア需要235万kW)

## 1. 四国エリア需要に対する太陽光発電比率および発電出力の推移 (速報)



## 2. 四国エリア需要に対する太陽光発電比率最大日の需給バランス

(エリア送電端、万kW)

|       |       | 令和2年5月5日(速報)         |                    | 〔参考〕前年度<br>令和元年5月5日  |
|-------|-------|----------------------|--------------------|----------------------|
|       |       | 11時～12時<br>(太陽光比率最大) | 4時～5時<br>(参考：需要最大) | 12時～13時<br>(太陽光比率最大) |
| エリア需要 |       | 232                  | 249                | 213                  |
| 供給力   | 太陽光   | (88%) 204            | 0                  | (88%) 187            |
|       | 風力    | 0                    | 5                  | 3                    |
|       | 火力    | 143                  | 172                | 109                  |
|       | 水力    | 20                   | 54                 | 16                   |
|       | 原子力   | 0                    | 0                  | 88                   |
|       | 揚水発電  | ▲60                  | 0                  | ▲59                  |
|       | 連系線活用 | ▲75                  | 18                 | ▲131                 |

(注) ( ) 内はエリア需要に対する割合を示す。

- ・火力の負荷調整
- ・揚水発電所運転
- ・連系線の活用

出典：四国電力送配電会社PR020/5/12

[https://www.yonden.co.jp/nw/press/2020/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2020/05/12/npr001\\_1.pdf](https://www.yonden.co.jp/nw/press/2020/__icsFiles/afieldfile/2020/05/12/npr001_1.pdf)

## 日本に求められること

- 持続可能な社会へのシフトを促す経済刺激策
- 産業構造を未来志向の持続可能型（脱炭素型、循環社会型）へ転換
- 気候変動の悪影響にも備える未来社会づくり



SDGs、パリ協定がガイドライン